



第3次豊川市生涯学習推進計画改訂版

一心に彩り 体に潤い 絆で結ぶ とよかわの生涯学習



©いなりん

令和3年3月

豊川市

目 次

はじめに	1
------------	---

第1章 計画の改訂にあたって

1 生涯学習の意義	2
2 計画改訂の背景	2
3 計画の位置づけ	4
4 計画の期間	5

第2章 本市の生涯学習を取り巻く現状

1 豊川市における生涯学習推進の取り組み	6
2 生涯学習に関する市民アンケート調査結果からみえる傾向	8
3 第3次豊川市生涯学習推進計画の評価と検証	22
4 課題の整理	23

第3章 計画の基本的な考え方

1 基本理念・基本目標	27
2 施策の方向性	27
3 計画の体系	29

第4章 施策の展開

1 施策展開の基本的な考え方	30
2 重点的に取り組む施策展開	31
施策の方向性1 「学びを育むきっかけづくり」の施策展開	31
施策の方向性2 「学びを通じた人づくり」の施策展開	34
施策の方向性3 「学びを生かしたまちづくり」の施策展開	35

第5章 生涯学習の推進に向けて

1 生涯学習の推進に向けた役割	37
2 計画の進行管理	38
3 評価目標	38

資 料	40
-----------	----

■社会教育委員名簿

■第3次豊川市生涯学習推進計画庁内検討部会構成課等

■生涯学習推進計画改訂版策定の経緯

■令和元年度生涯学習に関する市民アンケート調査結果

■用語の説明

■第3次豊川市生涯学習推進計画進捗状況表

はじめに

近年、少子高齢化や人口減少を代表とする社会構造の変化とともに、市民のライフスタイルや価値観が多様化し、地域社会が抱える課題や学習ニーズも複雑化してきています。また、度重なる自然災害や新型コロナウイルス感染症が及ぼした社会への影響もあり、人と人とのつながりや地域社会への貢献への意識が高まり、地域社会の持続的な発展を支えていく人材の健全な育成が一層重要となっています。

本市においては、「第6次豊川市総合計画」（平成28年3月策定）において教育文化のまちづくりの目標に「あらゆる世代の人が豊かな心を育んでいるまち」を掲げています。また、「豊川市教育振興基本計画」（平成24年3月策定）において「ともに学び 生きる力を育み 未来を拓く豊川の人づくり」を基本理念に掲げ、基本目標の1つとして「豊かな人生を自らが築く生涯学習社会を確立します」を定め、「第2期豊川市教育振興基本計画」（平成29年3月策定）においても継承しています。

生涯学習は、この基本理念における「人づくり」を担う重要な分野であり、そのためには、市民が生涯にわたって、いつでも、どこでも、誰とでも学習することができ、その成果を適切に生かすことができる環境を整えていくことが重要であると考えています。

このたび、平成28年3月に策定した「第3次豊川市生涯学習推進計画」の中間見直しを行う中で、課題の整理と今後の方向性を示した「第3次豊川市生涯学習推進計画改訂版」を策定しました。今後も、「学びが創る ひと・まち・未来」を基本理念として、より一層生涯学習の推進に向けて取り組んでまいります。

最後に、本計画の策定にあたり、貴重なご意見をいただいた社会教育委員の皆様や、アンケートにご協力をいただいた市民の皆様並びに関係各位に心より感謝を申し上げますとともに、今後の計画推進に向けて、市民の皆様が積極的に各種生涯学習活動にご参加・ご協力いただけることを、ここにお願い申し上げます。

令和3年3月

豊川市長 竹 本 幸 夫

第1章

計画の改訂にあたって

1. 生涯学習の意義

生涯学習とは、一人ひとりが自己の充実と自らの生活の向上を目指し、自己に適した手段や方法で、生涯にわたって自発的に行っていく学習活動のことです。

こうした市民の学習活動は、個人の自己実現に止まりません。学んだ成果を市民活動やボランティア活動などの地域活動に生かすことによって、誰もが住みやすく豊かなまちづくりにつながり、地域や家庭、学校、職場が活気に満ちた社会になっていくものと考えます。

つまり、生涯学習とは、自らの健やかで豊かな生活や自己実現のために行う学習活動であるとともに、その学習成果を地域づくり、まちづくりに生かすことが期待されている学習活動と言い換えることができます。



© いなりん

2. 計画改訂の背景

(1) 国・県の動向

「第3次豊川市生涯学習推進計画」策定後の国の動向については、平成28年5月に中央教育審議会答申「個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について」において、生涯学習を通じて「全員参加による課題解決社会」を実現するため、各種課題に対応する多様な学習機会を充実し、一人ひとりの可能性を高めることと、学習した成果が適切に評価され、活用につなげられる環境を整備することの両輪で進めることにより、「学び」と「活動」の循環を形成する方向性が示されました。また、平成30年6月に「第3期教育振興基本計画」が策定され、教育政策の目標として「人生100年時代を見据えた生涯学習の推進」及び「人々の暮らしの向上と社会の持続的発展のための学び

の推進」が掲げられました。さらに、平成30年12月の中央教育審議会答申「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」では、社会教育の意義や役割について、「『社会教育』を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくり」の重要性が示され、今後の社会教育施設には、学習と活動の拠点としての役割に加え、住民主体の地域づくり、持続可能な共生社会の構築に向けた取組などの役割が求められています。

一方、愛知県においては、「自己を高め、地域とつながり、未来を築く生涯学習社会」の実現を基本理念とした「第2期愛知県生涯学習推進計画」が平成30年3月に策定されました。その中で、市町村に期待される役割としては、生涯学習を通じた新しいコミュニティの再構築や、市民の地域社会への参画の促進、生涯学習に関するコーディネーターの養成及び資質の向上などが示されています。また、平成30年8月には「あいち子ども・若者育成計画2022」が策定され、「子ども・若者が健やかに成長し、それぞれ自立・活躍できる社会をめざして」を基本理念として、子どもの貧困問題への対応や、子ども・若者の活躍を後押しする人材育成が新たな推進施策として加わりました。そして、愛知県生涯学習審議会が令和2年3月にまとめた審議テーマ「地域のつながりをつくる生涯学習の在り方について」では、新たな「地域のつながり」を生み出す「つながりを創出する人」の重要性が指摘されています。

(2) 本市の動向

本市では、平成8年度に「豊川市生涯学習推進計画」を、平成18年度に「第2次豊川市生涯学習推進計画」を策定し、基本理念である「人がまちを創る まちが人をはぐくむ」の実現を目指し生涯学習施策の推進に努めてきました。

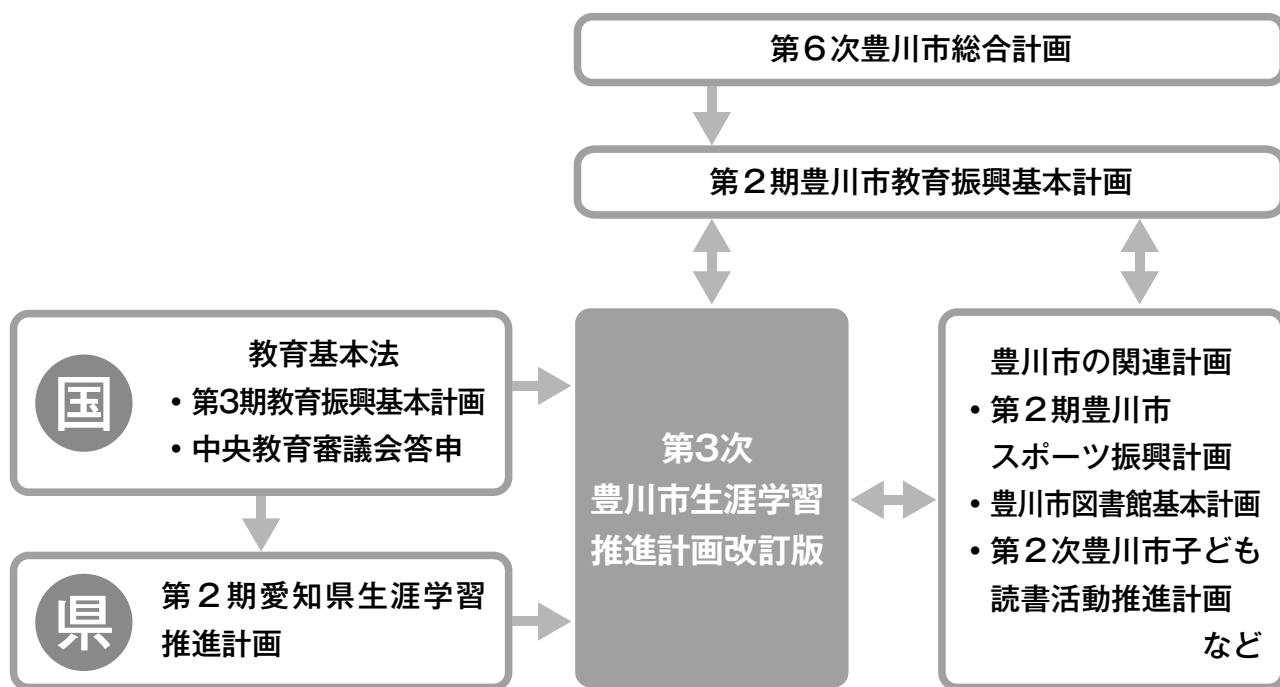
そして平成27年度に「第3次豊川市生涯学習推進計画」を策定し、基本理念を「学びが創るひと・まち・未来」として、3つの施策の方向性と11の推進方策、それに関連した35の具体的施策により施策展開の基本を示しました。計画の進行管理については、主要施策に評価指標を設けるとともに、庁内検討部会や社会教育審議会において毎年検証を行っています。

また、平成29年度から平成30年度にかけて社会教育委員による「学びを生かしたまちづくり 家庭・学校・地域の連携」をテーマとした調査研究を行い、既存事業の改善などが提案されました。さらに、令和元年度には「豊川市の生涯学習に関する市民アンケート調査」を実施し、市民の生涯学習活動に関する活動状況等の把握を行いました。

こうした国・県の動向や本市が実施した調査研究等の結果を踏まえつつ、令和2年度が「第3次豊川市生涯学習推進計画」における中間年度に該当することから、これまでの取り組みを検証し、生涯学習推進にあたっての新たな「第3次豊川市生涯学習推進計画改訂版」を策定しました。

3. 計画の位置づけ

この計画は、上位計画となる「第6次豊川市総合計画」及び「第2期豊川市教育振興基本計画」を踏まえるとともに、国・県の生涯学習振興方策や本市の関連計画などとは、整合を図りながら生涯学習推進の取り組みを実施していくものとします。



また、国連サミットで採択された「2030年に向けて、すべての人々が豊かで平和に暮らし続けられる社会をめざす『持続可能な開発目標（SDGs）*』」を意識した取り組みを展開していきます。なお、本計画では目標4【質の高い教育をみんなに】において、「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」の目標達成に貢献します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



4. 計画の期間

計画の期間は、第3次豊川市生涯学習推進計画の計画期間である平成28年度から令和7年度のうち、令和3年度から令和7年度までの5年間となります。

年度	平成9 (1997)	平成13 (2001)	平成17 (2005)	平成18 (2006)	平成24 (2012)	平成27 (2015)	平成28 (2016)	令和2 (2020)	令和7 (2025)
豊川市 生涯学習 推進計画	1次			2次			3次		
		中間 見直し			中間 見直し			中間 見直し	

※本計画書の中で、「*」の印がある言葉については、「用語の説明」(P55～P56)で意味を説明しています。

第2章

本市の生涯学習を取り巻く現状

1. 豊川市における生涯学習推進の取り組み

本市では、平成8年度に「豊川市生涯学習推進計画」を策定し、各種施策を展開して生涯学習によるまちづくりの推進を図ってきました。

本市における生涯学習推進の主な取り組みは、次のとおりです。

平成2年度	市内6中学校区に生涯学習指導員を配置 生涯学習推進に向けた構想や推進体制づくりを検討
平成3年度	生涯学習推進本部及び生涯学習推進会議を設置 生涯学習推進員を配置し、地域生涯学習講座の開始 「生涯学習ガイドブック」(年1回)の発行開始
平成4年度	「生涯学習市民のつどい」開催
平成5年度	市制施行50周年記念事業「とよかわ生涯学習フェスティバル」開催
平成8年度	「豊川市生涯学習推進計画」策定
平成9年度	生涯学習推進職員連絡会を設置
平成10年度以降	「生涯学習ガイドブック」の発行を年2回に増加 「地域生涯学習だより」、「ハロー・サークル」の発行開始 市ホームページへの生涯学習情報の掲載開始 「まちづくり出前講座」の開始
平成13年度	「豊川市生涯学習推進計画改訂版」策定
平成15年度	豊川市子どもセンター協議会事業「子どもものづくり教室」、「親子ふれあい工房」の開設 豊川市生涯学習支援ボランティアバンクを開設
平成18年度	「第2次豊川市生涯学習推進計画」策定
平成20年度	放課後子ども教室の拡充開始(毎年2小学校区ずつ開設地区を拡大)
平成21年度	市民参画型生涯学習システム「とよかわオープンカレッジ」を開設
平成24年度	「第2次豊川市生涯学習推進計画改訂版」策定 生涯学習情報サイト「まなびネットとよかわ*」の運用開始 プリオ生涯学習会館の開館 一般社団法人とよかわオープンカレッジの設立
平成25年度	市制施行70周年記念事業「とよかわ生涯学習フェスタ」開催 以後、「生涯学習成果発表会」として年2回開催
平成27年度	「第3次豊川市生涯学習推進計画」策定
平成28年度	放課後子ども教室を全小学校区で開設完了
平成29・30年度	社会教育委員による調査研究「学びを生かしたまちづくり家庭・学校・地域の連携」策定
令和2年度	「第3次豊川市生涯学習推進計画改訂版」策定

生涯学習推進計画の策定や体制整備を行う中で、順次拡充してきた取り組みとしては、①「生涯学習ガイドブック」を始めとする生涯学習情報の提供②放課後子ども教室を始めとする子ども向け事業の展開③とよかわオープンカレッジを始めとする市民参画型事業の展開④生涯学習成果発表会における学んだ成果を提供する機会の提供があげられます。

また、公共施設の管理については人口減少や少子高齢化、厳しい財政状況、施設老朽化といった課題に対応する必要性があり、「豊川市公共施設適正配置計画*」（平成27年6月）では、今後の公共施設適正配置の取り組みによって実現を目指す将来像を『公共施設の新たな価値の創出“人が集い、市民交流を促す場を創造する”』と掲げています。

そのため、社会教育施設（コミュニティ施設）である公民館・生涯学習会館については、施設の長寿命化や他施設との複合化・機能集約を図る必要があります。また、公民館・生涯学習会館は利用時間や使用料などにおいて異なる運営を行っており、以前より同じ社会教育施設としての管理運営の考え方を整理する必要性がありました。

こうした施設のハード面とソフト面の課題に対応するため、令和元年度に「豊川市公民館・生涯学習会館再編方針」を策定し、公民館の修繕等の方針やより効率的・効果的な管理運営を行うための条例・制度の一本化を図ることが定められました。この再編方針に基づき、令和3年度から各公民館・生涯学習会館は生涯学習センターへと名称変更するとともに、各施設の改修事業に着手します。

また、「豊川市公共施設適正配置計画」のリーディング事業の1つとして、現在、小坂井地区においては施設の再編が進められ、支所機能、生涯学習・コミュニティ機能、図書館機能、児童館機能を備えた複合施設である「こざかい葵風館^{きふうかん}」が令和3年5月に供用開始されます。



こざかい葵風館外観

2. 生涯学習に関する市民アンケート調査結果からみえる傾向

令和元年10月に16歳以上の豊川市民2,000人を対象に「生涯学習に関する市民アンケート調査」を実施しました（巻末資料参照）。過去の調査結果との比較から、以下のように本市の生涯学習に関する現状と課題が明らかとなりました。

（1）生涯学習に対する意識からの考察

① 8割以上の方が生涯学習の重要性を認識

「生涯学習が大切と思う」人の割合は81.2%で、前回調査より若干減少しましたが、回答をいただいた方の8割以上が生涯学習の重要性を認識していることがわかります。

また前回調査と比べ約5%減少したものの、回答をいただいた方の5割強が何らかの生涯学習活動を行っています。が、「現在生涯学習活動を特に行っていない」人の割合が44.4%を占め、前回調査から変化はなく、年代別には40代をピークとして勤労者世代に

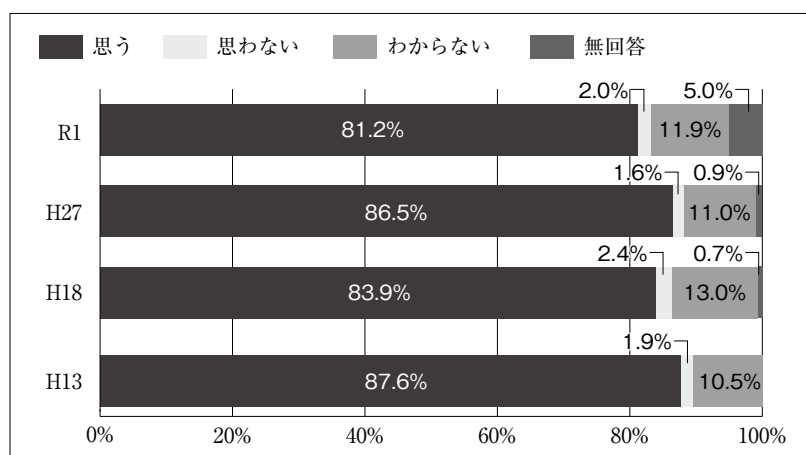


図1 生涯学習が大切と思う人の割合(問2)

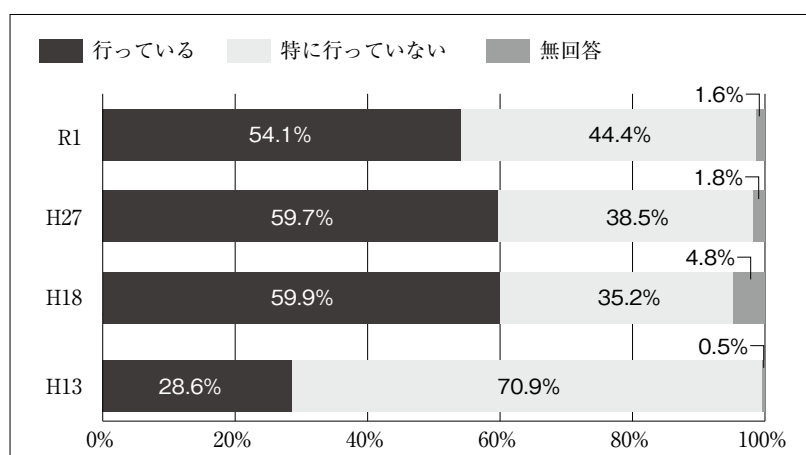


図2 生涯学習活動を行っている人の割合(問4)

生涯学習活動を特に行っていない人の割合が多いことから、積極的な学習の必要を感じていない方々に対しても意識啓発を図っていく必要があります。

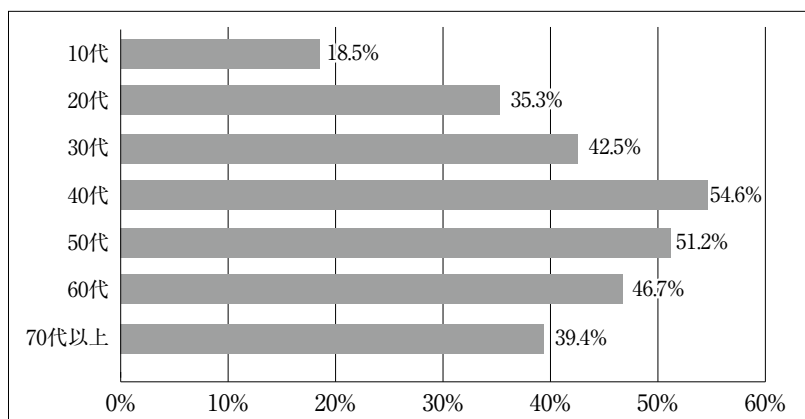


図4 生涯学習を行っていない人の割合(年齢別)(問4)

②生涯学習は仲間づくりに役立つ

前回調査から変化はなく、生涯学習が大切と思うと答えた人の理由として自由時間の活用や健康維持に次いで「同好の仲間づくり・新しい人との出会いや交流のため」が3位を占め、性別で見ると男性より女性の数値が高い傾向にあります。また年代的には、特に10代の数値が高く、友人や知人、仲間の存在が大きく影響していると考えられます。

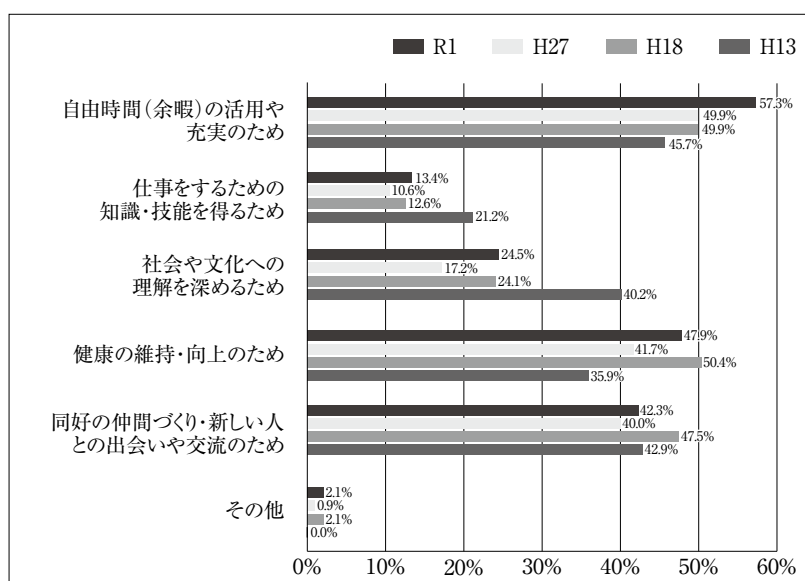


図5 生涯学習を大切に思う理由(問3)

(2) 学習活動分野からの考察

①学習活動分野の健康志向化

学習活動分野について、学習活動の現状と今後の希望を比較すると、この1年間に行ってきたものとしては「スポーツ・レジャーに関するもの」が最も高く、「健康づくりに関するもの」、「趣味に関するもの」、「情報通信に関するもの」の順となっています(図5)。また今後学びたい分野では、「健康づくりに関するもの」が最も高く、「スポーツ・レジャーに関するもの」、「情報通信に関するもの」、「趣味に関するもの」と続きますが、前回と比較して「情報通信に関するもの」への関心が高くなっています(図6)。

両設問ともに前回調査同様に「スポーツ・レジャーに関するもの」と「健康づくりに関するもの」の比率が高く、年代別では中高年ほど「健康づくりに関するもの」の比率が高いことから、中高年を中心とした学習活動分野の健康志向化が進んでいることがわかります。この傾向は、「生涯学習」を通じて身につけた知識・技能や経験をどのように生かしていますかの設問に対し、「健康増進に役立っている」が3位を占めていることからもうかがえます（P.16の図16）。

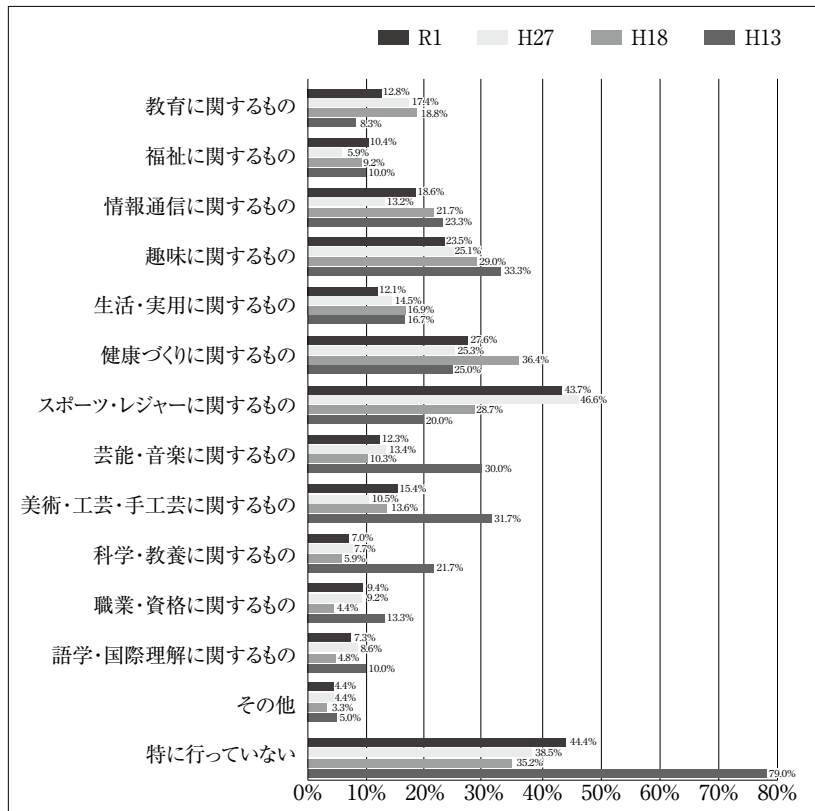


図5 現在行っている生涯学習活動の分野(問4)

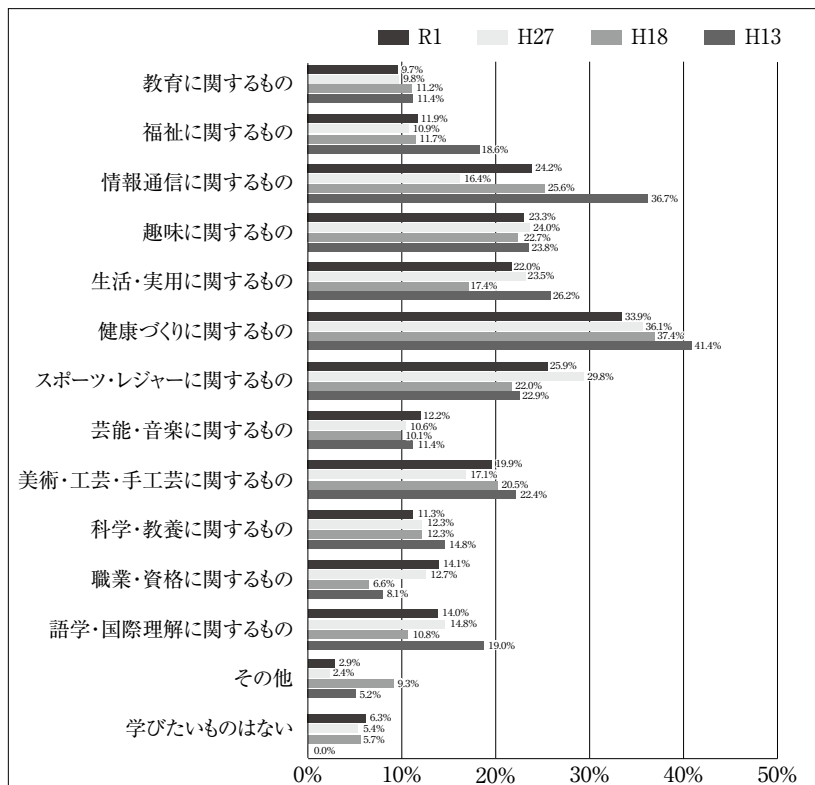


図6 今後学びたい学習分野(問10)

(3) 学習活動の現状からの考察

①学習方法の多様化が進む

活動の方法については、前回調査から変化はなく、「独自・個人」(35.8%)が最も高く、「民間の講座・教室」は増加傾向にある一方で、「団体・サークル活動」や、「市の講座・教室」が前回に比べて減少しています。個人や気の合う仲間とともに、自主的に活動する傾向がうかがえ、学習方法の多様化が進んでいることがわかります。

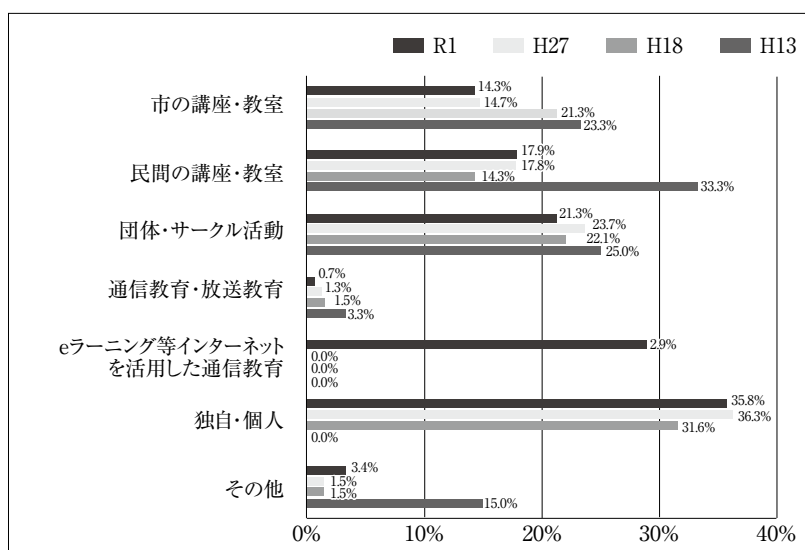


図7 生涯学習活動の方法(問5(1))

年代別にみると、20代、30代では活動の方法として「独自・個人」が高く、また活動の場所も自宅が高くなっています。また、男女別にみた特徴では女性は「市の講座・教室」の利用が比較的高いのに対し、男性は「市の講座・教室」の利用が低く、理由として平日の昼間を中心とした「市の講座・教室」は、仕事のため参加しづらい現状があると推測されます。

②学習頻度は週1回程度が多い

生涯学習活動の頻度は、前回調査から変化はなく、「週1回程度」とした人が最も多くなっています。「ほとんど毎日」から「月2回程度」までで約8割を占めており、定期的、継続的な生涯学習活動が行われていることがわかります。

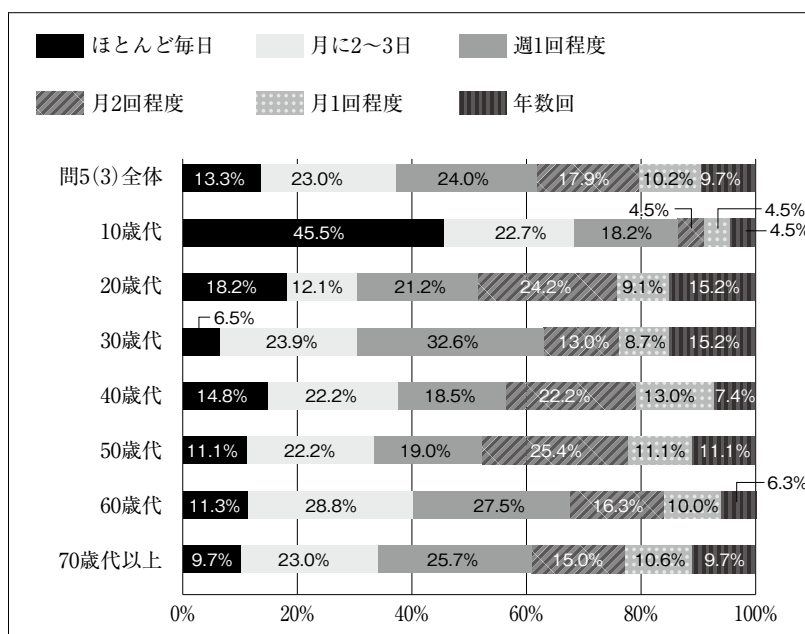


図8 生涯学習活動の頻度(年代別)(問5(3))

(4) 生涯学習活動をしていない理由からの考察

①ライフスタイルに応じたきっかけづくり

生涯学習活動を特に行っていない人の理由については「時間の余裕がない」が57.5%と1位を占めており、「何を学んでよいかわからない」(16.2%)、と続いています。

「何を学んでよいかわからない」と回答した人は、学習活動への意欲はあるものの、きっかけがつかめなため、学習活動に参加できていないものと考えら

れ、参加のきっかけとなる活動や場づくり、情報提供が必要となります。

時間の余裕がないと回答した人を年代別にみると、20代から50代までのほぼ全体で特に割合が高くなっていますが、こうした方々も、今後ワーク・ライフ・バランス*の実現等により条件が整えば、心にゆとりを持つことができ、生涯学習活動に親しむきっかけをつかむことができる可能性があります。

また、自由意見の記載において、「仕事や子育てのため、時間の都合がつかない」という意見が散見されました。各世代のライフスタイルに応じた講座の開設時間の工夫など、講座内容や学習機会の提供方法をさらに検討していく必要があります。

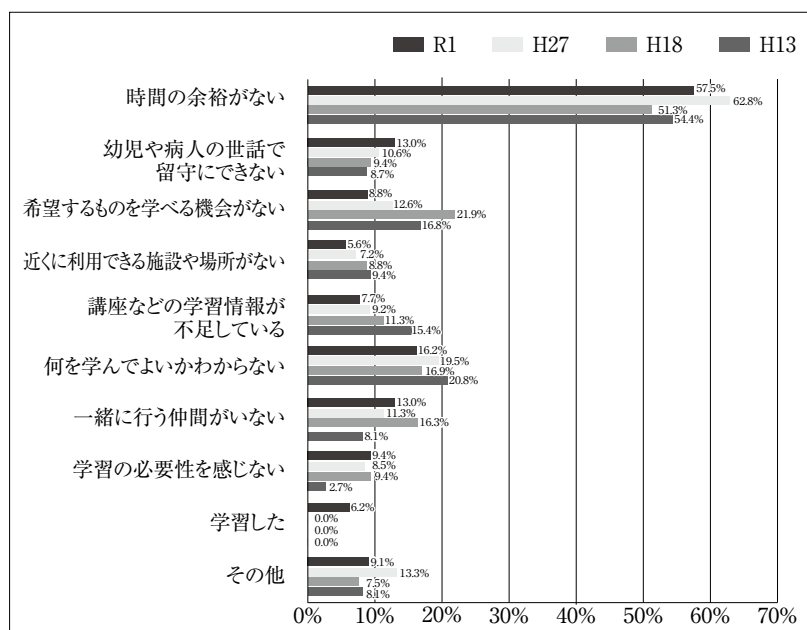


図9 生涯学習活動をしていない理由(問6)



地域生涯学習講座「健康体操」

(5) 学習情報を得る方法からの考察

①求める生涯学習情報

どんな分野の生涯学習情報を望んでいるのかについては、前回と同じく1位が「市の講座・催物（とよかわオープンカレッジを含む）の各種情報」（45.4%）、2位が「地域の催物に関する情報」となっていることから、市からの情報提供のニーズが高いことが分かります。より、分かりやすく情報を提供する方法を検討していく必要があります。

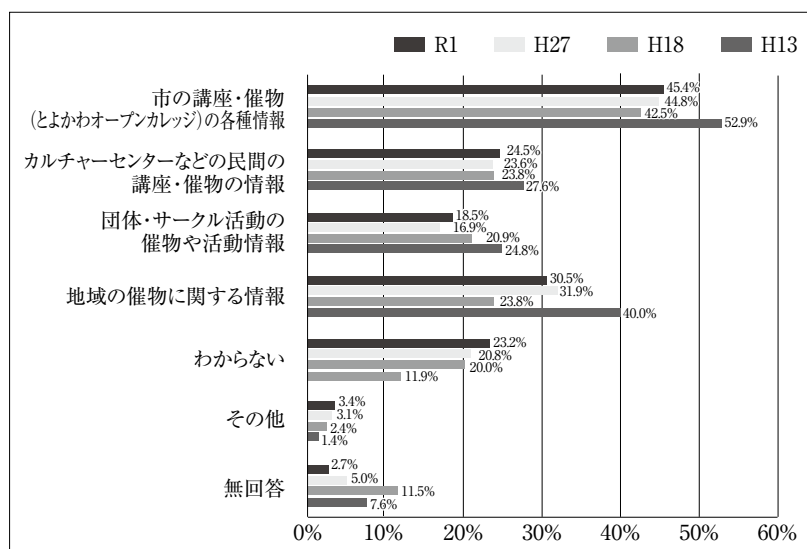


図10 どのような分野の生涯学習を望むか(問7)

②情報収集手段の変化

生涯学習に関する情報収集手段として何が重要かとの質問に関しては、「市広報の掲載内容の充実」が48.7%と最も高く、「インターネットやホームページ等を活用した情報の提供」(18.5%)、「わからない」(11.0%)と続いています。前回調査より「インターネットやホームページ等を活用した情報の提供」が2位となっており、インターネットによる情報収集手段に需要が高まっていることがうかがえます。

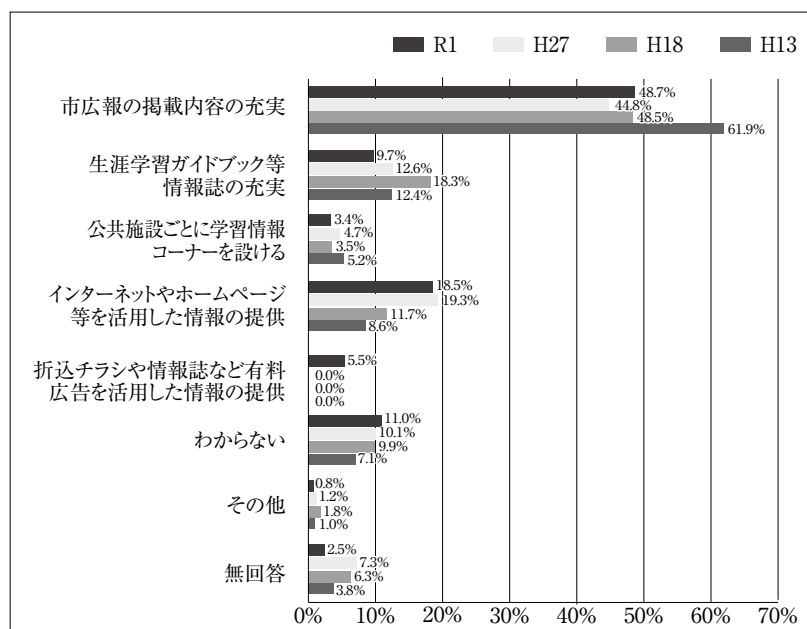


図11 生涯学習情報を得る方法として何が重要か(問8)

③年代等に応じた情報提供が必要

回答者の年代別にみた情報収集手段については、「市広報の掲載内容の充実」を主体としながらも、10代、20代を中心に若年層では「インターネットやホームページ等を活用した情報の提供」が高い一方、40代以上では市広報掲載内容の充実が回答の約5割を占めています。生涯学習情報の情報提供方法については、大別すれば2つのニーズがあり、ひとつは、市が発行する広報紙、生涯学習ガイドブックなど紙媒体によるもの、

もうひとつは情報端末やインターネットによるもので、パソコンを持たない・利用しない人々や高齢者にとっては、紙媒体での情報は依然として要望が高い一方で、インターネットなどを利用する人々には、ICT*を活用した情報提供も求められており、それらを組み合わせることなどによりきめの細かな情報提供を行っていく必要があります。

また、情報を提供するだけでなく、学習意欲はあっても必要な情報が入手できない、自分にあった情報を提供して欲しい、相談にのってほしいといったニーズへの対応も検討していく必要があります。

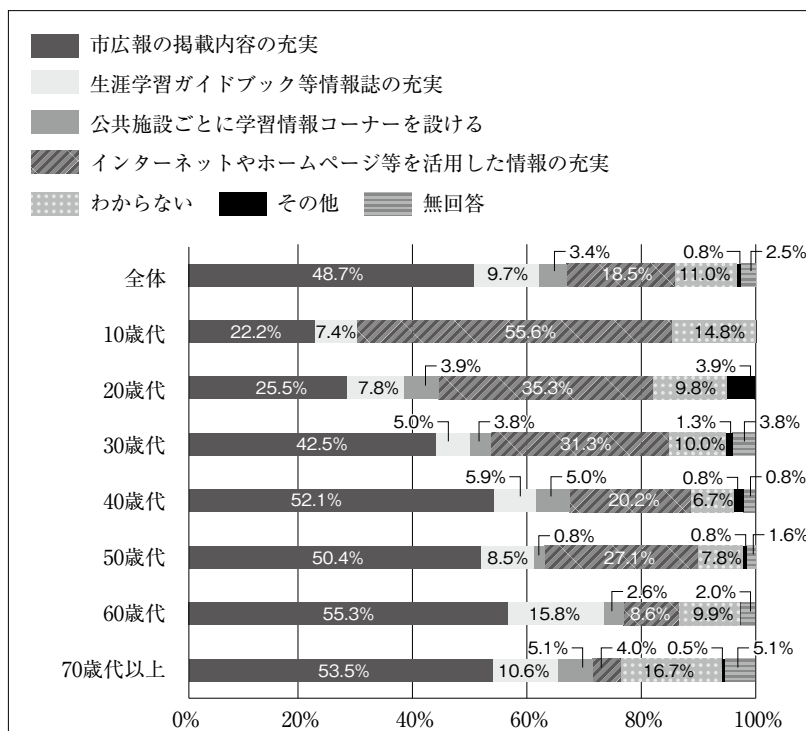


図12 生涯学習情報を得る方法として何が重要か(年代別)(問8)

④情報提供が不十分

市が行っている生涯学習に関する広報や情報提供への評価は、前回調査とほぼ変化なく、「もっと情報提供してほしい」が「今のままでよい」と比較しても大きな割合であることから、引き続き市の広報や情報提供に市民があまり満足していないことがわかります。

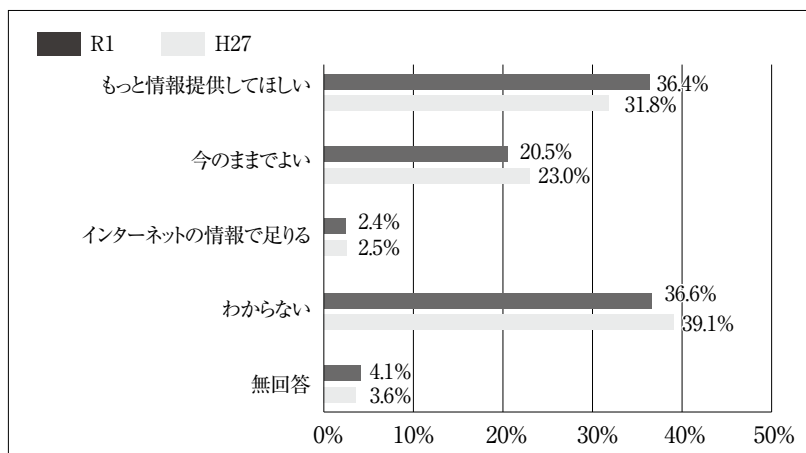


図13 市の生涯学習に関する広報や情報提供は十分か(問19)

(6) 市の講座・教室の大切な点からの考察

①市が開催する講座や教室について安価で都合の良い時間帯を重視

市の講座・教室の大切な点については、1位が「安い費用で学習できる」(46.7%)、2位が「都合の良い時間帯に学ぶことができる」(38.1%)となっていることから、地域生涯学習講座やとよかわオープンカレッジ等の安価な学習機会を提供できても、都合の良い時間帯に学ぶことができない市民が大勢いることが推測されます。

よって平日夜間や休日開催の講座を増やすことにより勤労者の方々にも講座受講の機会を広げていく必要があります。

また、年代別にみると10代は「たくさんの種類があり希望のテーマの選択ができる」が1位であるなど、年代別のニーズに対応した講座等の開催も必要となります。

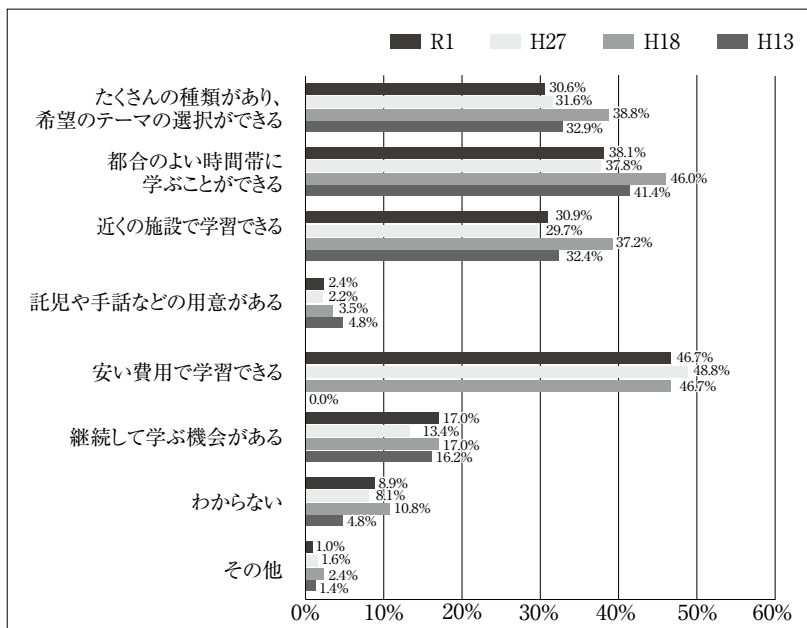


図14 市の開催する講座や教室の大切な点(問9)

②生涯学習充実のために良いと思う施設

生涯学習充実のために良いと思う施設については、「図書館、文化会館、生涯学習会館などの既存施設を改善する」(36.8%)、「公民館・地区市民館などの身近な施設を改善する」(36.0%)となっており、自宅の近くなどで気軽に利用できる施設のニーズが高い傾向があります。

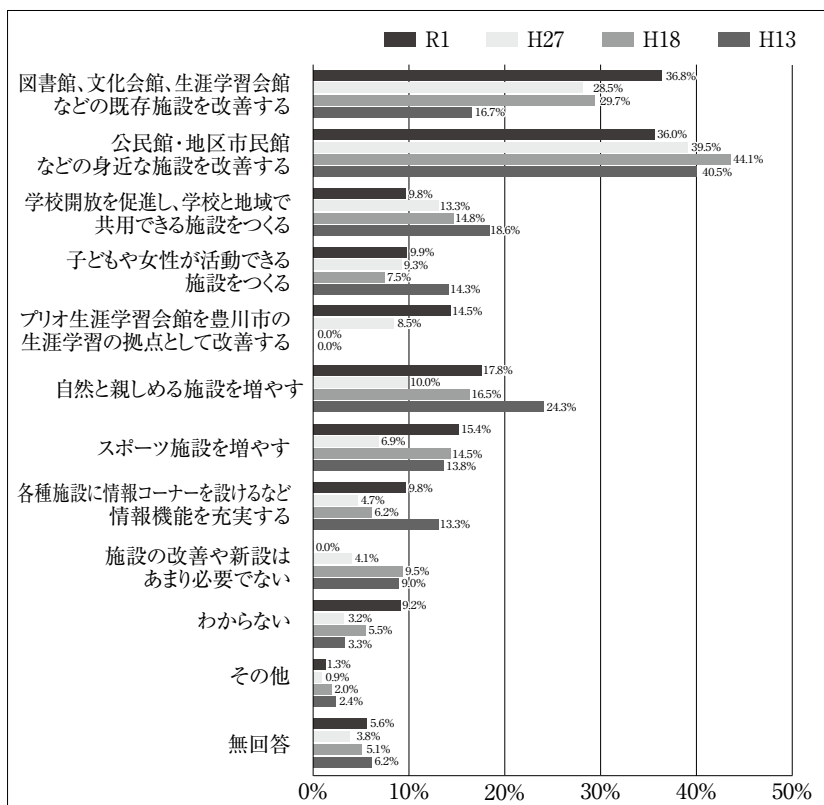


図15 生涯学習充実のために良いと思う施設(問11)

(7) 身につけた知識などの活用からの考察

①まちづくりのための人材育成が必要

身につけた知識・技能や経験をどのように生かしていますかの回答の順位は、1位「自分の人生がより豊かになっている」、2位「家庭・日常の生活に生かしている」、3位「健康増進に役立っている」と続いており、個人の学びが自己実現に生かされているものの、残念ながら社会の要請に応じた「ボランティア活動に生かしている」や「地域や社会での活動に生かしている」は下位となっています。

また、「今後、あなたの知識・技能を生かして、生涯学習講座の講師・指導等を行ってみたいと思いますか」の質問に対し「思う」と答えた方は4.3%と前回調査に比べ2.9%減少していますが、生涯学習の取り組みとして今後重要なことの4

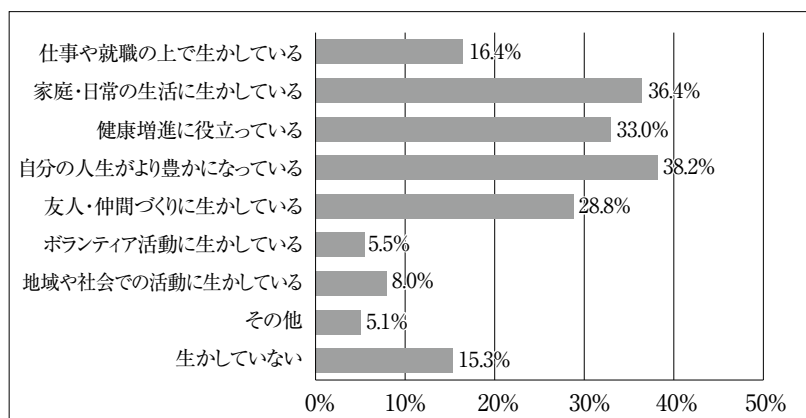


図16 生涯学習を通じて身につけた知識・技能や経験の生かし方(問14)

位に「講師・指導者の充実を図る」が挙げられています。(P48の問12、P53の問21)

今後は、「人生100年時代」の到来に向けて社会人の学び直しとしてのリカレント教育*が求められています。未経験の分野を学び、新たな出会いや社会的なつながりを育むことで、今まで築いてきた経験や知識を掛け合わせ、より価値の高い成果や達成感を得ることができ、豊かな人生につながります。また、個人の知識や学びが、地域社会の教育力の向上にも寄与することが期待されることから、とよかわオープンカレッジのシステム等により講師の育成を図り、地域の生涯学習活動を担うボランティア等の人材発掘を進めながら、学習成果を地域課題の解決やまちづくりへの市民参画につなげていく有効な仕組みを考えていく必要があります。

継続した生涯学習活動には「生涯学習活動→出会い→学習成果を生かす活動→出会い→生涯学習活動→…」という学びの循環が伴います。この生涯学習を通じた学びの循環を仲間づくりや地域づくりと結びつけることにより、趣味や健康づくりといった身近な学習機会の提供が、ボランティア活動や地域活動につながっていく仕組みを構築していく必要があります。

(8) 市の生涯学習への取り組み満足度

①市民満足度は、既に活動を行っている人ほど満足度が高い

市の生涯学習への取り組みに満足しているか否かについての回答は、「かなり満足+やや満足」が16.3%、「かなり不満+やや不満」が7.6%となっており、満足している人の割合のほうが不満を抱えている人の割合より高いことがうかがえます。

また、「わからない」が43.1%と最も高く、このことから市の生涯学習の取り組みが認知されていない課題がうかがわれます。

男女別の満足度をみると、男性より女性の方が満足している人の割合が高い傾向が見られます。

年代別の「かなり満足」と「やや満足」を合わせた満足度は、70代以上が21.7%と最も高く、次いで

60代が19.1%となっており、市の講座等への参加率の高い高齢者ほど、満足度も高い傾向があります。

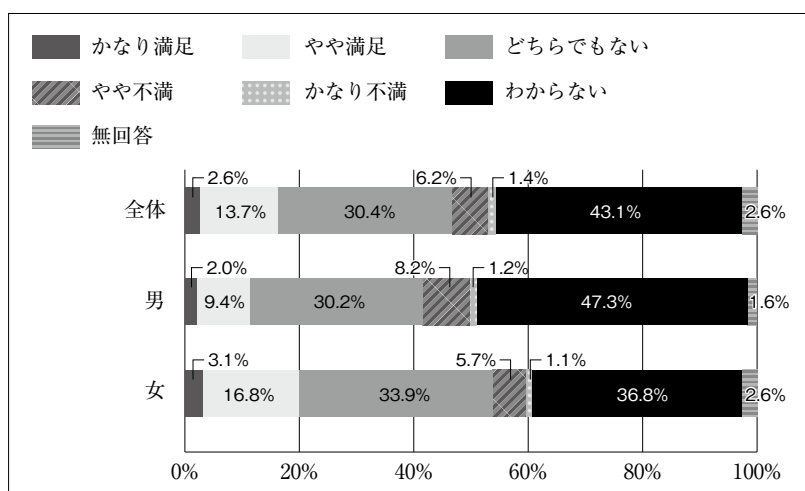


図17 市の生涯学習の取り組み満足度(性別)(問20)

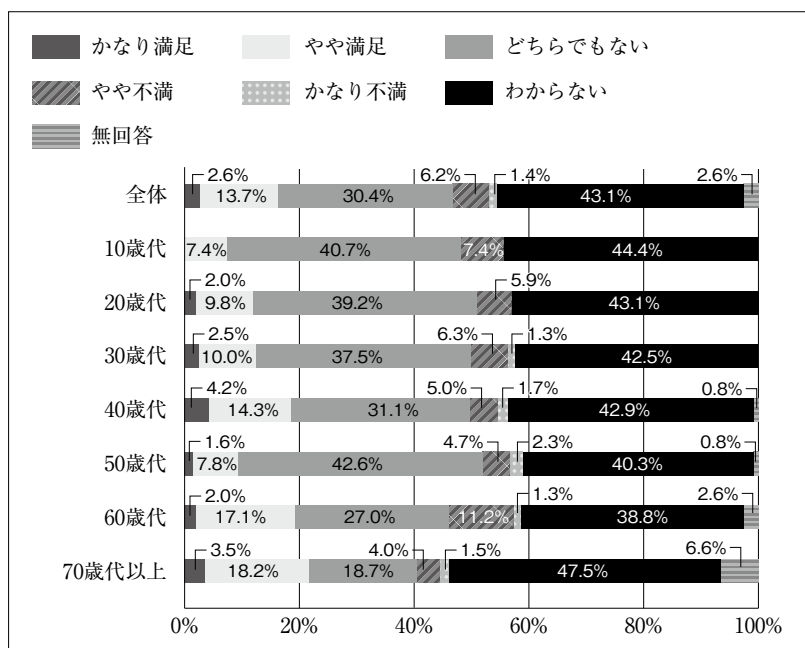


図18 市の生涯学習の取り組み満足度(年代別)(問20)

②今後重要だと思う市の生涯学習への取り組み

市の生涯学習への取り組みとして、今後、どのようなことが重要かの回答の順位は、1位「子どもから大人、高齢者や障害のある人など、市民の誰もが参加できるようなライフステージに応じた生涯学習活動を推進する」、2位「講座・教室などの内容を充実する」、3位「学習に関する情報提供を充実する」であり、4位「講師・指導者の充実を図る」、5位「学びの場となるグループ・サークル活動の支援」と続きます。

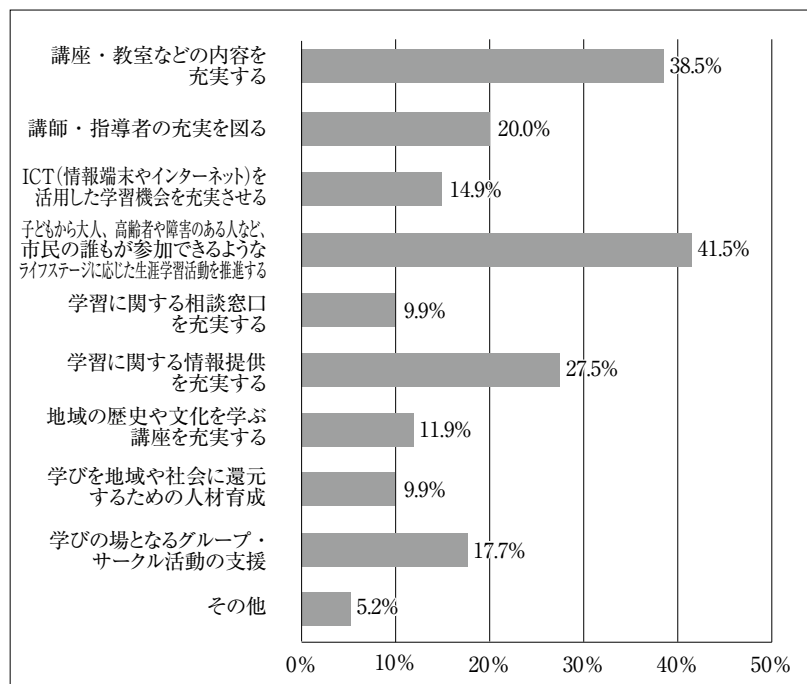


図19 今後重要だと思う市の生涯学習への取り組み(問21)

上位項目については、従来からも取り組んでいるものですが、より充実を目指すために、講座等のメニューの充実や情報提供のあり方について新たな方策を工夫する必要があります。

年代別でみると10代から30代の若年層は「ICT*を活用した学習機会を充実させる」が高く、学習する時間や場所の制約を受けにくい新たな学習方法の提供も検討していく必要があります。また60代以上では「地域の歴史や文化を学ぶ講座を充実する」が高くなっており、市民一人ひとりが、市内の各地域に伝わる文化財や伝統芸能、伝統行事などに関心を持ち、郷土理解を深める学習を推進していくことも、生涯学習の学びを生かしたまちづくりを進めていく上で必要と考えられます。

(9) とよかわオープンカレッジの活用からの考察

①とよかわオープンカレッジを知っている人の割合

「とよかわオープンカレッジ」のことを知っている人の割合は41.1%で前回の調査とほとんど変化はありません。今後もたくさんの方に知ってもらえるように周知活動を行っていく必要があります。

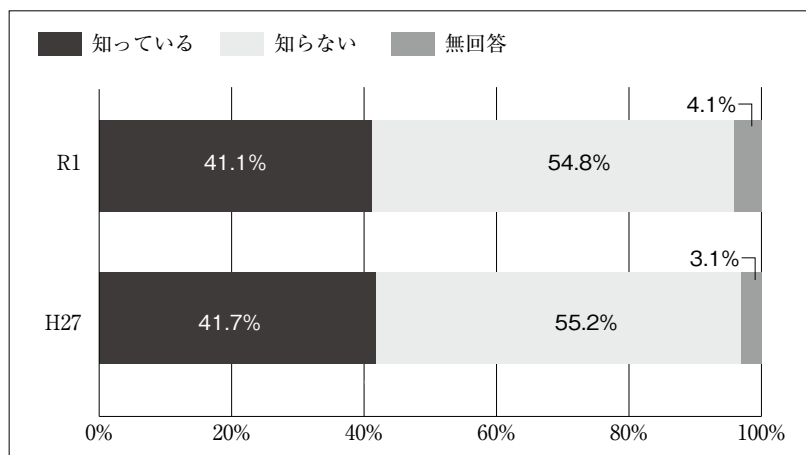


図20 「とよかわオープンカレッジ」を知っている人の割合(問15(1))

②とよかわオープンカレッジの受講割合

「とよかわオープンカレッジ」を知っている方の中で受講したことがある人の割合は29.6%で前回の調査よりも増加していることがうかがえます。

今後は、より魅力的な講座を開いてたくさんの方が受講してもらえるように工夫していく必要があります。

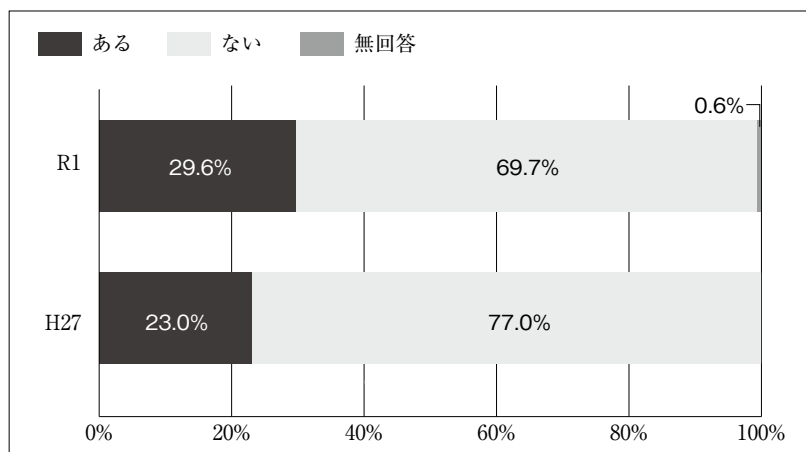


図21 「とよかわオープンカレッジ」の受講割合(問15(2))

③受講したい講座の分野

「健康・フィットネス」、「趣味・生活・料理」、「教養・文学・語学」の順に割合が高くなっています。

今後も需要に応じた講座をより多く取り入れていくことが必要です。

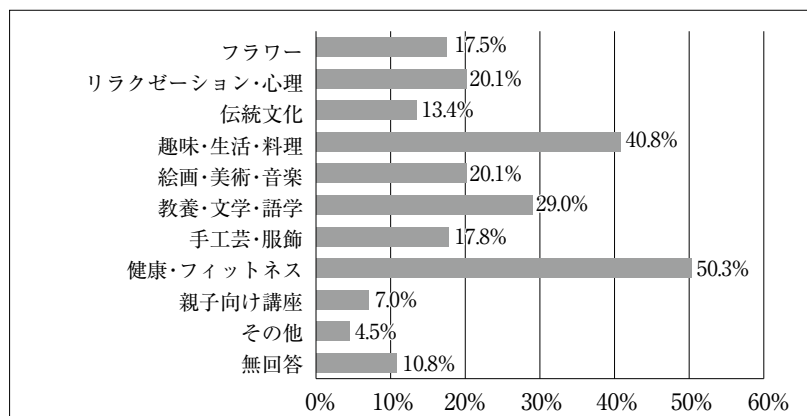


図22 受講したい講座の分野(問15(3))

(10)本市の生涯学習にかかる施策からの考察(令和元年度市民アンケート設問のみ)

①家庭の教育力の向上を図る施策

家庭の教育力の向上で必要なことの回答の順位は、「仕事と家庭生活の調和(ワーク・ライフ・バランス*)を図るため企業が子育てを応援」が24.0%と最も高く、続いて、「豊川市などが、子育てに悩む親のために、相談機関や支援機関を充実させる」となっていますが、「豊川市などが、NPO法人、幼稚園・保育園、PTA、子ども会、民間事業者及び学校と連携して、広く家庭教育に関する親の学習の場を設ける」へも多くの回答があり、家庭の教育力の向上において、この3つの施策が重要だと考えられます。

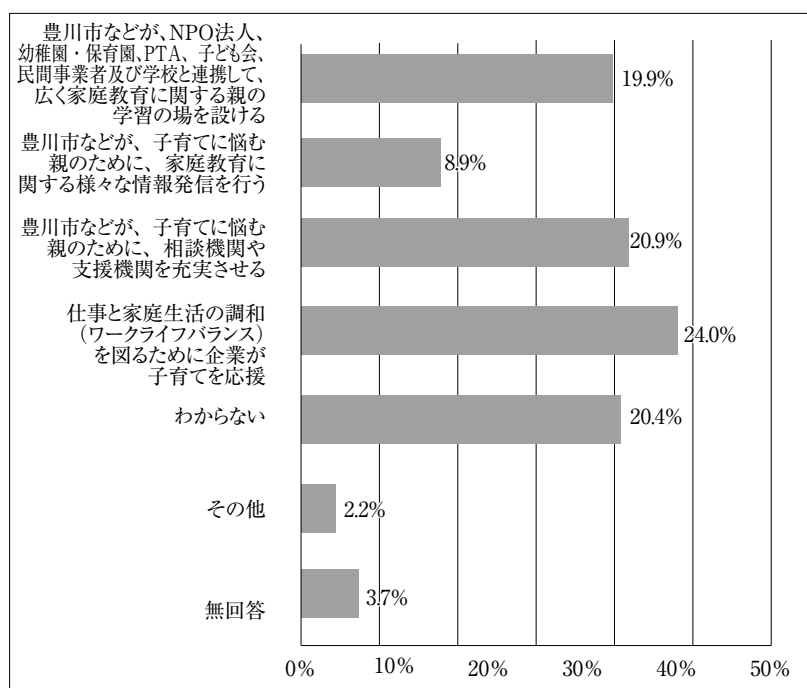


図23 家庭の教育力の向上を図るために必要な施策の割合(問22)

「豊川市などが、NPO法人、幼稚園・保育園、PTA、子ども会、民間事業者及び学校と連携して、広く家庭教育に関する親の学習の場を設ける」へも多くの回答があり、家庭の教育力の向上においては、この3つの施策が重要だと考えられます。

②家庭の教育力の向上を図る施策（年代別）

年代別の家庭の教育力の向上に必要なことは、10代から40代までは、「仕事と家庭生活の調和（ワーク・ライフ・バランス*）を図るために企業が子育てを応援」が多くを占めており、50代と70歳以上は、「豊川市などが、NPO法人、幼稚園・保育園、PTA、子ども会、民間事業者及び学校と連携して、広く家庭教育に関する親の学習の場を設ける」の割合が高くなっており、若い世代では、職場環境の改善を求めている、高年齢層では、地域の環境整備を重要視していることがうかがえます。

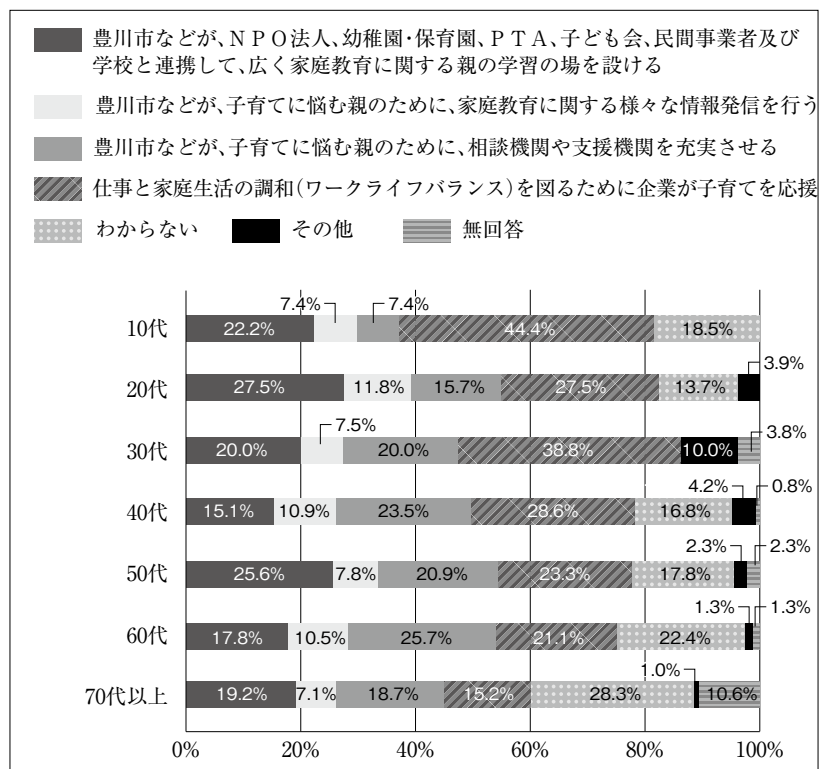


図24 家庭の教育力の向上を図るために必要な施策の割合（年代別）（問22）

③民間事業者と連携する生涯学習事業

民間事業者と連携する生涯学習事業で実現を期待するものの回答の順位は、1位「普段は見学できない民間事業者の生産現場などを複数見学し、豊川市のものづくりなどを知るような生涯学習事業」、2位「民間事業者が提供している商品やサービスを活用したものづくり体験のような生涯学習事業」となっています。

今後は、行政が行う事業だけではなく、こうした民間事業者と連携・協力する取り組みが求められます。

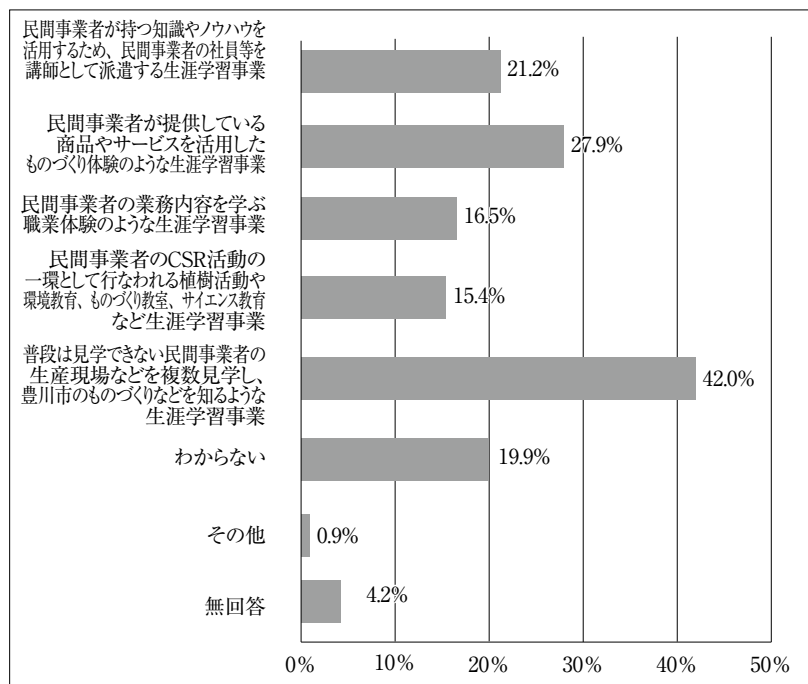


図25 民間事業者と連携する生涯学習事業で実現を期待するものの割合（問24）

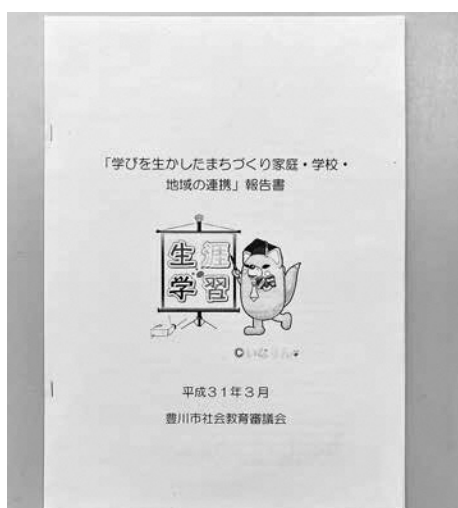
3. 第3次豊川市生涯学習推進計画の評価と検証

(1) 第3次豊川市生涯学習推進計画の進捗管理

計画の進捗管理は1年を基本単位としたPDCAサイクルを用いて、「PLAN（計画）」⇒「DO（実施）」⇒「CHECK（点検・評価）」⇒「ACTION（改善）」といった流れで行っています。毎年、平成28年7月に設置した第3次豊川市生涯学習推進計画庁内検討部会における前年度の実績把握と検証、社会教育審議会における前年度の主要事業の実績についての検証、教育行政事務点検評価委員会*による豊川市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うことで、未実施事業の抽出や各種事業の課題と今後の方向性を検討し、次年度の事業計画策定に向けての参考としています。（P.57～P.58「第3次豊川市生涯学習推進計画進捗状況表」参照）

(2) 社会教育委員による調査研究「学びを生かしたまちづくり 家庭・学校・地域の連携」

豊川市社会教育委員による最初の調査研究として、平成29・30年度の2か年をかけて「学びを生かしたまちづくり 家庭・学校・地域の連携」をテーマとした報告書をまとめました。この中では、家庭教育、学校教育、地域との連携、行政内連携、生涯学習事業に関する現状と課題の整理を行い、家庭・学校・地域の連携に向けての今後の方向性として具体的な改善提案がなされました。また、複合施設である「小坂井地域交流会館（仮称）」の利活用についても具体的な提案がなされました。この報告書における課題の整理や改善提案については、本計画に反映しています。



「学びを生かしたまちづくり 家庭・学校・地域の連携」報告書

4. 課題の整理

本市の生涯学習推進の取り組みや市民アンケート結果などを踏まえた課題を整理します。

施策の方向性 1 「学びを育むきっかけづくり」の課題

- 情報発信について、市民の要求度は高いものの、生涯学習ガイドブック、生涯学習情報サイト「まなびネットとよかわ*」の認知度・活用率ともに低い状況にあるため、より一層の周知を図るとともに、内容の見直しを検討する必要があります。また、市広報やホームページ・SNS*等による情報提供をより充実する必要があるほか、あわせて紙媒体による情報提供も効果的に行う必要があります。
- 情報化社会において、インターネットやSNS等の正しい利用方法を身につけてネット関連のトラブルに遭わないための対策が必要です。
- 学習のきっかけがつかめなため、学習活動に参加できていない市民が一定数いることから、より効果的な情報提供を行うほか、参加のきっかけとなる活動や場づくりが必要となります。また、生涯学習に関する様々な相談ニーズへの対応を充実させる必要があります。
- 生涯学習活動を行っていない理由として「時間の余裕がない」と回答した市民の多くが勤労者世代であり、各世代のライフスタイルに応じた講座の開設時間の工夫など、講座内容や学習機会の提供方法をさらに検討していく必要があります。
- 退職後ひきこもりがちな男性高齢者の孤立化が課題となっており、様々な技能や知識を持っている男性が地域で活躍するためのきっかけとして、父親の参加や定年退職前の男性の地域デビューなど、男性が参加しやすい事業を工夫する必要があります。
- 子育て支援事業の参加者については、家庭教育に積極的な家族の参加に偏りがちであり、あらゆる家庭に参加しやすい学びの場を提供し、家庭の教育力向上を図っていく必要があります。
- 子育てや家庭教育に関連した様々な事業が、複数の部署で行われている現状があり、行政内の情報共有を図りながら連携が進むような事業展開をこれまで以上に意識して進めていく必要があります。

- 放課後子ども教室については、授業カリキュラムとの調整、放課後児童クラブ（子育て支援課所管）、民間事業者との連携、特別に支援を要する参加希望者への対応、他の子ども向け事業との住み分け等を考慮しながら、事業内容の見直しを図る必要があります。また、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動*」を推進するため、地域住民等と学校との連携協力体制の強化を図る必要があります。
- 生涯学習事業全般の課題として、講師の高齢化が進み新規講師の確保も難しい点から、一部の講座では講座のマンネリ化や参加者の減少を招いています。また、男性向けの講座は全体的に受講率が低い傾向にあり、ニーズの把握と効果的な周知方法の検討が必要です。

【未実施事業の検討】

推進方策（1）多様なニーズに対応した学習メニューの展開

具体的施策⑤民間団体・民間事業者との連携

「商工会議所との事業連携の促進」

商工会議所と連携して実施している子どもものづくり教室は、小学生を対象としたキャリア教育*となっています。中高生については、民間事業者と連携した職場体験など、キャリア教育を推進するための体制の構築を進めます。

施策の方向性2「学びを通した人づくり」の課題

- 「人生100年時代」の到来が予測される現代において、心豊かに人生を送るためには、健康寿命を延ばすための実践的な学習が必要です。一方、地域の歴史・伝統文化・祭礼の継承について、知識や技能を持つ高齢者の活躍が期待されています。このため、高齢者自身の学習機会と、次世代との交流・継承の機会づくりが求められています。
- 地域活動やボランティア活動に高校生・大学生・青年団等の若者の参加がみられるものの、地域に根ざした組織的な活動は以前と比べ低調となっており、若者の学びや青年期の社会参画・地域活動を活性化する取り組みが必要とされます。
- 市民アンケートの調査結果では、10代から30代の若年層は「ICT*を活用した学習機会を充実させる」取り組みの重要度が高く、学習する時間や場所の制約を受けにくい新たな学習方法の提供も検討していく必要があります。

- 経済や社会構造の変化などにより、非正規労働者、若年無業者（ニート*）の増加が社会問題化し、若年層を中心として資格取得や職業能力向上への関心が高まっていることから、若者の職業的自立をめざし、生徒・学生の進路指導や職業体験、社会体験の機会充実に努めていく必要があります。
- サークル活動におけるメンバーの固定化に伴い、新しい方が参加しにくい状況が生じており、気軽に参加しやすい環境づくりに努めていく必要があります。

【未実施事業の検討】

推進方策（２）若者の学びと社会参加の推進

具体的施策①キャリア教育*機会の充実

「キャリア教育を通じた青少年健全育成の推進」

各校区における青少年健全育成の取り組みや、地域生涯学習講座などにおいて、地域住民や民間事業者と連携しながらキャリア教育を推進していきます。

具体的施策②若者の社会参加の推進

「若者が参加しやすい講座開催の検討」

市民アンケートにおいても10代から30代の若年層はICT*を活用した学習機会の充実の要望が高いことから、eラーニング*やオンラインといった新たな学習方法について引き続き研究します。



放課後子ども教室「英語でクッキング」

施策の方向性3「学びを生かしたまちづくり」の課題

- 「第2期愛知県生涯学習推進計画」では、かつては自治会、町内会などの地縁的な組織が地域課題の解決などを行ってきたものの、社会構造が急激に変化するとともに、人々の価値観も多様化して組織の結びつきが弱くなっていることを指摘しています。このことは本市も同様であり、今後は行政と地域が連携して、同じ課題をもつ個人やグループ同士がつながり、生涯学習を通じた学びの循環を仲間づくりや地域づくりと結びつける仕組み作りが必要です。
- 地域社会のつながりや支え合いの希薄化等により地域の教育力が低下し、また、学校が抱える課題は複雑化・多様化しています。そこで、知識・技能や経験を生かし、子どもたちの居場所をつくり、これからの時代を生き抜く力を身につけ、地域への愛着や誇りを育むために、地域と学校が連携・協働し、地域全体で未来を担う子どもたちを支援する取り組みが必要です。
- 地域には、子ども会、PTA、校区青少年健全育成推進協議会、地区民生委員・児童委員協議会、老人会などの地縁組織や様々なサークル団体などがありますが、それぞれの組織が連携した事業の取り組みはあまり進んでいない現状です。こうした組織が緩やかにつながり、互いに協力しながら地域活動に取り組むためのネットワーク*作りが必要です。
- 民間事業者は豊富な知識やノウハウ、人材等を持っていますが、生涯学習事業においてはまだ十分な活用が図られているとは言えません。多様化した生涯学習ニーズに対応するため、地域の貴重な社会資源である民間事業者と連携することはより重要となっており、民間事業者と地域住民が互いに学び合うことが、豊かな地域づくりにつながります。



令和元年度 豊川市子ども会連絡協議会K Y T研修会

第3章

計画の基本的な考え方

1. 基本理念・基本目標

本計画は、第3次豊川市生涯学習推進計画の改訂版であるため、第3次豊川市生涯学習推進計画が採用している基本理念・基本目標を踏襲します。

基本理念

学びが創る ひと・まち・未来

一心に彩り 体に潤い 絆で結ぶ とよかわの生涯学習

基本目標

豊かな人生を自らが築く学習社会を確立します

2. 施策の方向性

生涯学習推進の基本目標を達成するため、推進方策を定める必要がありますが、基本理念・基本目標を念頭に、学習社会の確立が人づくり、まちづくりにつなげられるように定めた施策の方向性「1 学びを育むきっかけづくり」、「2 学びを通じた人づくり」、「3 学びを生かしたまちづくり」についても、本計画では踏襲します。

施策の方向性1：学びを育むきっかけづくり

未来に向け、基本理念「学びが創る ひと・まち・未来」の生涯にわたっての学びを育む環境を整備するための施策のグループです。市民の多様なニーズに対応した学習メニュー・学習機会・学習情報の提供や、学びの場の充実といった、生涯学習のきっかけづくりとなる施策が相当します。

施策の方向性2：学びを通した人づくり

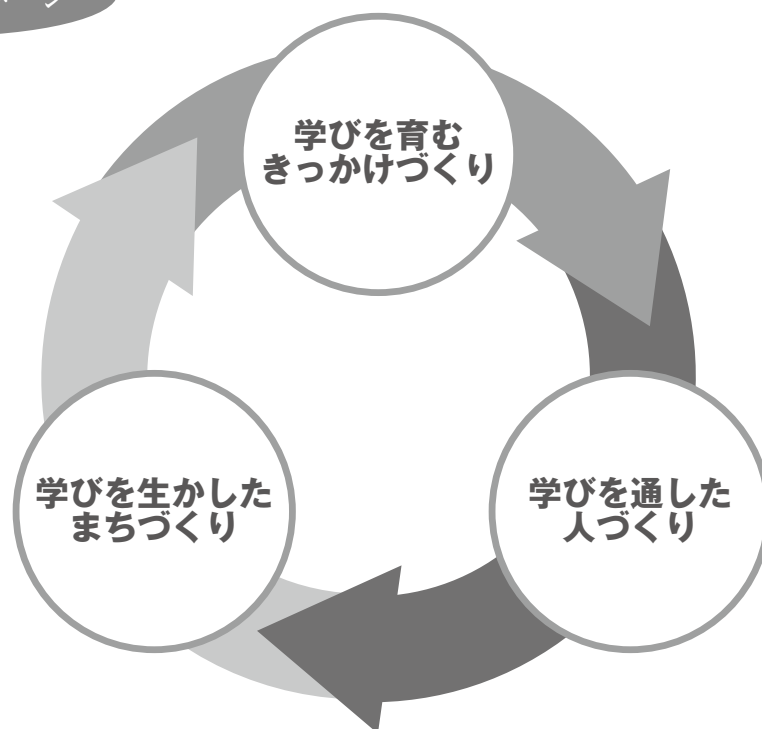
未来に向け、生涯学習の学びを通した人づくり、仲間づくりのための施策のグループです。学習成果の発表や、社会参加を通した人づくり、学びの循環や仲間づくりを通した人づくりに関する施策が相当します。

施策の方向性3：学びを生かしたまちづくり

未来に向け、生涯学習の学びを生かしたまちづくりに必要な施策のグループです。あらゆる世代において、学びが自己の生活を豊かにするだけでなく、その学習成果を地域の教育力の向上や、地域づくり、まちづくりに生かすために必要な施策が相当します。

この3つの施策の方向性による学びの循環が、これからの豊川市の生涯学習にとって重要と考えます。

学びの循環イメージ



3. 計画の体系

基本理念をもとに展開する本計画の体系を次のように定め、効率的、効果的な施策展開に努めます。★印は本改訂版で変更した施策です。

施策の方向性		推進方策	具体的施策
基本目標 豊かな人生を自らが築く学習社会を確立します	1 学びを育むきっかけづくり	(1)多様なニーズに対応した学習メニューの展開	①子ども向けの各種体験講座・教室の開催 ②学びを広げる市域生涯学習の推進 ③地域の特性を生かした地域生涯学習の推進 ④現代的課題に対応した学習機会の充実 ⑤民間団体・民間事業者との連携
		(2)ライフスタイルに合わせた学習機会の提供	①ワーク・ライフ・バランスに配慮した学習機会の提供 ②子育て世代が参加しやすい学習機会の提供 ③定年退職者やアクティブシニアへの学習機会の提供
		(3)学びを広げる学習情報・学習機会の充実	①高齢者の生きがい・健康づくりのための学習機会の提供 ②障害者に配慮した学習機会の提供 ★③効果的な学習情報の提供と相談体制の充実 ④様々な学びを支える図書館サービスの充実 ⑤スポーツや健康づくりに関する学習機会の充実
		(4)学びの場の充実	①生涯学習関連施設の利便性向上 ②学校を中心とした地域の拠点づくり ★③複合施設における連携した事業の推進
	2 学びを通じた人づくり	(1)学習成果の発表の場の充実	①学びの成果を確認する機会の充実 ②発表の場の充実と交流の推進 ③伝統文化や文化芸術の発表の場の提供
		(2)若者の学びと社会参加の推進	①キャリア教育機会の充実 ②若者の社会参加の推進 ③子ども・若者育成支援の推進
		(3)学びの循環による人づくり	①地域の教育力を支える講師・指導者の育成 ②中高年による高齢者の支え手の育成 ③学習成果を活用する機会の充実
		(4)仲間づくりのための活動支援	①各種講座・教室の自主サークル化の推進 ②ボランティア活動につながる人材育成支援
	3 学びを生かしたまちづくり	(1)学習成果の実践の場の充実	①生涯学習活動と市民活動との連携 ②学習活動が市民協働につながる仕組みづくり
		(2)家庭・学校・地域との連携強化	①青少年健全育成を通じた地域との連携 ②家庭・学校・地域との連携による地域教育力の向上支援
		(3)学習成果が生きるまちづくりの支援	①事業成果の評価と活用 ②地域の生涯学習施設を拠点としたまちづくりの支援 ③郷土理解と文化芸術の創造による地域づくりの支援 ④まちづくりにつながる人材育成と活動の場の充実

第4章

施策の展開

1. 施策展開の基本的な考え方

基本理念である「学びが創る ひと・まち・未来」及び基本目標「豊かな人生を自らが築く学習社会を確立します」の実現のため、3つの施策の方向性と11の推進方策、それに関連した35の具体的施策により施策展開の基本を示しました。

具体的施策の推進にあたっては、基本理念及び基本目標を踏まえるとともに、計画策定の前提となっている国や県の動向、生涯学習に関する市民アンケート結果、現行計画の課題などから導き出された5つの視点を念頭に置き、より重点的に取り組むべき施策展開の内容について示します。

視点1

きっかけづくり

何を学んでよいかわからないという市民に対し、生涯学習を始めてみようという意欲を喚起させるため、きっかけづくりの視点で効果的な情報発信や、それぞれのライフステージ*に応じた学習機会の提供を行う必要があります。

視点2

社会の要請へ対応する人づくり

超高齢化社会が進展していく中で、自らが地域社会に貢献するための学習や、多様な価値観に共感できるような世代間交流の取り組みを推進し、市民協働のまちづくりに参画する人材育成の必要があります。

視点3

つながりづくり

地域のつながりの希薄化が課題となっており、市民・行政・民間事業者等が連携する中で、人と人とのつながりや地域コミュニティの再構築に向けた取り組みを進めていく必要があります。

視点4

地域・家庭の教育力の向上

核家族化や少子化が進み、社会環境や生活様式が大きく変化する中で、子育て家庭の孤立化や子育て不安の増大等が課題となっており、親としての力を高めるための家庭教育に関する学習機会を充実させるとともに、地域で子どもを育てるための地域全体の教育力の向上を図っていく必要があります。

視点5

地域に根ざした学びの広がり

地域の豊かな自然や歴史・文化・産業について学ぶことで、地域に対する郷土愛が育まれ、将来にわたり持続可能な地域社会を形成するための活動につなげる取り組みの必要があります。

2. 重点的に取り組む施策展開

(1) 施策の方向性1「学びを育むきっかけづくり」の施策展開

推進方策1 多様なニーズに対応した学習メニューの展開

- 誰もが気軽に生涯学習講座に参加しやすいように、初心者向けや単発講座などを増設して、新たな参加者が増えるように取り組み、生涯学習の活性化を図ります。
- 生きがいづくり・社会参加の推進のため、誰もが地域でいきいきと生活し、地域活動への参加・促進につながる学習を展開します。
- インターネットやスマートフォン*に関心を示す高齢者は増加しており、市民がICT*社会に適応するための講座を充実します。また、SNS*の利用に慣れている若年層が高齢者層に教える機会を創ることによる、世代を超えた交流の促進を図ります。
- 放課後子ども教室については、子どもたちにより魅力ある教室を開催するため、民間事業者との連携を進めるほか、開催日時の再検討、配慮が必要な子どもなどの対応を考慮した安全管理体制の見直し、放課後児童クラブとの連携を進めます。
- とよかわオープンカレッジの認知度を上げて市民の学習機会の拡大を図るとともに、市民ニーズに合った魅力ある講座内容を企画していきます。また、高等教育機関との連携については、近隣大学のほか、県や高等学校との連携も視野に入れて、事業の推進を図ります。
- 地域の再発見、伝統文化といった地域に根ざした特色ある講座や、防災、子育て、介護と

いった現代的課題・地域課題に関する講座を開催することで、地域コミュニティの形成を図ります。

- 「健康づくり」や「スポーツ・レジャー」に関する市民の意識が高いことから、ライフステージ*に応じた健康づくりやスポーツに親しむ機会の創出に努めます。特に子どもの体づくりの推進として、地域のスポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ等におけるスポーツ活動を支援します。
- 多様化する図書館利用者のニーズへの対応やICT*の活用として電子図書館サービスの充実を図ります。また、子どもの読書活動を推進する取り組みとして、マイブックプロジェクトや読み聞かせ教室を実施します。
- 専門的かつ高度な人材や施設設備など貴重な学習資源を活用して地域貢献をしようとする地元企業において、社員のワーク・ライフ・バランス*の確保や、企業の地域貢献等の観点から生涯学習事業との連携を働きかけます。また、豊川のものづくり現場を知ってもらうことで、市民の郷土愛の醸成を図ります。
- 「人生100年時代」を迎えて社会人の学び直しとしてのリカレント教育*が求められており、生涯学習講座において介護保険制度を始めとする福祉制度や労働、医療分野など、キャリア形成や人生設計に寄与する学習メニューを実施するなど、豊川市独自の学び直しの機会の充実を図ります。

推進方策2 ライフスタイルに合わせた学習機会の提供

- 乳幼児期における家庭教育、青少年期における体験活動や地域との関わり、成人期には社会生活や家庭生活を通して生じる様々な課題、高齢期における生きがいづくりや健康づくり、仲間づくりは、それぞれのライフステージ*において重要な課題となっています。このため、「人生100年時代」を見据え、市民がいつまでも心豊かな暮らしを送ることができるよう、ライフステージにおける課題に応じたきめ細かな学習が主体的に行える学習機会の提供を推進します。
- 妊娠期から学齢期までの切れ目のない支援の実現に向けて、これから親になる世代や子育て中の親に対する家庭教育を支援するための連携体制を構築し、庁内関係部署や関係機関・関係者の間で、支援が必要な子どもや家庭に関する情報や協働の促進を図ります。
- 平日夜間や土日祝日の講座開催など、勤労者世代が参加しやすい環境づくりを行うとともに、セカンドライフを迎えるにあたって自らの経験やノウハウを生かしながら、アクティブシニア*として地域でも活躍できるような男性の地域デビューを支援するため、子どもや高齢者を含めた世代間交流の場を設けるなどの取り組みを進めます。

推進方策3 学びを広げる学習情報・学習機会の充実

- 市民に学ぶことの楽しさや大切さに興味・関心を持ってもらうため、市広報のより一層の活用を図るほか、生涯学習ガイドブック、チラシなど紙面や配布方法の工夫、タウン情報誌の活用など、紙媒体の充実を図ります。また、市ホームページ、「生涯学習情報サイト まなびネットとよかわ*」の内容の充実や利便性の向上のほか、QRコードを活用したアクセスの向上等を図り、多様な媒体による情報提供を行うことで新たな参加を促します。
- 豊川市公式SNS*や「とよかわ安心メール」の活用による行政からの情報発信のほか、市民や民間事業者の協力による情報発信など、官民協働による情報発信を継続的に行うことで、より多くの市民が生涯学習に関心を持っていただくためのきっかけづくりにつなげます。
- 「中央図書館コラボ展示」は市民の目に触れる機会が多いことから、今後も中央図書館と他課との連携により情報発信に努めます。
- これから開催する講座等の学習情報の提供にあたり、文字だけでなく画像や動画も用いて内容をわかりやすく紹介したり、人気の高い講座等の概要を画像や動画も含め事後公開するなど、情報化社会に対応するICT*を活用した利便性の高い情報提供に努めます。
- 価値観やライフスタイルの多様化、社会情勢の変化等により、市民の学習ニーズは生活・趣味・教養的な内容から地域に必要とされている現代的課題に対応した学習まで、様々な分野にわたっており、一人ひとりの学習を支援するための相談支援体制の整備を図ります。
- 障害者が生涯学習や文化活動に興味を持ち、活動を始めるきっかけとなるよう、市ホームページをはじめ障害者に対してICTの活用などによる生涯学習情報の提供、障害者に配慮した図書館サービスの充実、誰もが参加しやすいスポーツ活動・文化活動の支援を行います。

推進方策4 学びの場の充実

- 公民館・生涯学習会館の管理運営を統一し、開館日数・時間を拡大するなどによる利便性の向上を図ります。また、施設の安全性を確保することはもとより、多様化・高度化する学習や利用ニーズに応えられるよう計画的に施設の整備・改修を進めます。
- 令和3年度から供用開始する複合施設「こぞかい葵風館^{きふうかん}」において、庁内部署間の情報共有を図ることで事業の相互連携や統廃合を含めた検討を行い、効率的な事業実施を行うほか、利用者等による運営方法等の意見の反映することでより利便性の高い施設を目指します。

また、家庭・学校・地域・民間事業者等が連携することで、地域住民の世代間交流を図るとともに、地域全体で子どもを育てるための新しい生涯学習事業を創造します。

(2) 施策の方向性2「学びを通じた人づくり」の施策展開

推進方策1 学習成果の発表の場の充実

- 社会教育施設等での発表会や展示会は、学習意欲の高揚と地域の交流・学習活動の輪が広がる契機となることから、その機会の充実を図ります。
- 生涯学習活動での学びをはじめ、ボランティア活動・市民活動・コミュニティ活動等で習得した知識や技術を生かす場を設け、人材確保と活用の促進を図ります。

推進方策2 若者の学びと社会参加の推進

- 小中学校において働く意義を体感する職場体験学習や福祉実践教室を開催し、モラルやマナーの向上、人や社会との関わり等の学びの促進に努めます。
- 次世代を担う若者がボランティアとして継続して参加できる事業を実施することにより、様々な体験や他者との連携・協働、社会との関わりを通して、社会の中で自立して生き抜く力の養成や地域住民の一員として地域の課題解決を主体的に担うための人材育成を図るとともに、持続可能な地域づくりを目指します。

推進方策3 学びの循環による人づくり

- 地域には、積極的に学習活動に取り組み、知識を深めたり技術を磨いたりしている人、仕事で身に付けた知識や技術・技能などを持つ人、優れた指導者となりうる人が数多くいると考えられます。それらの人が地域や団体活動のリーダー、ボランティアとして活躍することで人と人とのつながりが生まれ、地域の活性化につながります。このため、地域における学習活動の活発化を図り、専門的知識を持つリーダーを始め、地域や団体活動のリーダー、ボランティアとなる人材の育成と新たな人材の発掘を図ります。
- 学習の成果を地域での活動に生かすことで、充実感が味わえ、また新たな課題の解決のためにさらに学ぼうという意欲につながります。こうした「学びと活動の循環」を創出するため、人と地域をつなぐことで学習者・活動団体同士の交流や連携を促進し、情報交換・情報の共有を図る“学びのネットワーク*づくり”を推進します。

推進方策4 仲間づくりのための活動支援

- 地域生涯学習講座やとよかわオープンカレッジの講座において講座参加者が固定化する場合に、受講者の習熟度に合わせた自主サークルの結成を促します。
- 参加者同士がつながる方法として、講座終了後の座談会を開くなど交流の場を設けたり、講座内容に関連するサークル団体を紹介するなど、つながりの構築を推進します。
- 意欲はあるものの講座の参加に至らない男性がいることから、講座参加者や仲間募集のメッセージ等を発信するなど、男性が参加しやすい工夫をするとともに、参加した男性が地域で仲間のつながりを持つための取り組みを行います。また、退職前の男性を対象に、地域貢献の活動内容、活動方法の説明会や研修会の参加を促すことで地域デビューのきっかけづくりを図ります。
- グループでの学習を希望する市民が自発的に団体を組織し、自主的な運営を行えるよう支援を行います。また、紙媒体や市ホームページ等でサークル団体の情報提供を行うとともに、サークル間の交流を促す取り組みを行います。

(3) 施策の方向性3「学びを生かしたまちづくり」の施策展開

推進方策1 学習成果の実践の場の充実

- 住民ニーズの高い趣味・教養的な学習講座の提供に加え、地域課題の解決に向けた学習機会の提供や人材養成を行うことにより、学習の成果を地域へ還元しやすい環境を作り、地域住民によるまちづくりを進め、生涯学習を通したコミュニティの再構築を推進します。
- 自らを地域社会が必要としていることに気づき、地域社会に新たな一步を踏み出すための学習や、世代を超えて多様な価値観や考え方に共感できるよう世代間の交流を積極的に推進し、地域社会への参画が促進される循環を創り出します。

推進方策2 家庭・学校・地域との連携強化

- 子育てに悩む親のために、家庭教育に関する様々な情報を発信するほか、行政、NPO、幼稚園・保育園、PTA、子ども会、民間事業者、学校が相互に連携して、広く家庭教育に関する親の学習の場の創出を図ります。
- 新しい複合施設である「こごかい葵風館^{きふうかん}」は、小中学校に近接して整備され、児童館機能

も含まれることから、学校活動と連携した児童館活動や、放課後子ども教室の実施が可能となり、様々な教育活動での利活用を推進します。

- 複数世代が参加する講座の開催、各種講座参加者間の交流、子ども会、青年団、PTA、老人クラブ等の団体間の交流を促進するほか、ひとり暮らし高齢者、障害者など地域社会から孤立しがちな人たちとの交流など、住民相互の交流の場・機会の創出することで、こうした人たちの活動圏域の拡大を図るとともに、相互理解と地域住民の連帯感を高め、地域の教育力の向上を図ります。
- 幅広い地域住民や民間事業者、団体等と連携して学校運営協議会の更なる活性化を図るとともに、地域と学校が連携し地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていく「地域学校協働活動*」を推進し、地域全体の教育力の向上と地域の活性化を図ります。

推進方策3 学習成果が生きるまちづくりの支援

- 生涯学習の内容や形態は極めて多様なため、地域における様々な学習機会について、全体を俯瞰的にとらえ、関係者間をつないだり、必要な学習の場について調整を行う役割を担うコーディネート機能の向上を図ることが必要です。豊川市生涯学習支援ボランティアバンクを始めとする生涯学習に関する様々な情報を整理・活用することで、市民同士の学びあいを醸成します。
- コミュニティリーダー養成講座や防災ボランティア養成講座など様々なボランティアの人材養成を継続して実施するほか、地域生涯学習講座やまちづくり出前講座などにおける地域の将来像を考える参加型講座の開催や、多世代で交流できるイベント開催など、意識的に地域に関心を持つためのきっかけづくりを行うことで、従前から地域づくりに関する活動を行っている方々に加え、新たな地域の担い手が参加しやすいような機運を醸成します。これにより、これまで地域と関わりがなかった幅広い世代の多様な専門性を持つ人材等も巻き込みながら、継続的で幅広い連携体制の構築につながり、多様化・複雑化する地域の課題に対応するまちづくりを目指します。
- 市内には地域特有の祭礼や伝統文化が数多く存在しており、地域住民が相互に協力し、教え合う中で、多世代が交流する機会が生まれます。こうした地域住民の触れ合いの場を大切にしながら、将来にわたり継承していくための支援を行います。

1. 生涯学習の推進に向けた役割

本計画の推進にあたっては、行政内の連携を強化するとともに、市民や地域、学校、関係機関等が互いに連携を図り、それぞれが主体的に生涯学習活動に取り組んでいくことが重要です。そのため、以下の主体ごとの役割に基づき、相互に連携し、円滑に計画を推進していきます。

市民の役割

人生100年時代とも言われる中で、市民が心身ともに健やかに過ごし、また、グローバル化の進展など社会が変化する中で、現代的・社会的な課題の解決を図っていくためには、一人ひとりが潜在能力を最大限に伸ばし、自立するための学習が重要となっています。そのため、学校教育などの人生の一時期のみならず、ライフステージ*や置かれた状況に応じて、生涯にわたって、多様な場で様々な経験を積むことが求められています。

また、学んだ成果を地域活動に生かすことにより、豊かなまちづくりにつながることを期待されます。

地域、関係団体・機関等の役割

豊かな人生を送るためには、子ども、高齢者、障害者など全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる「地域共生社会」の実現が必要です。そのためには、あらゆる住民が地域とつながり、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを形成することが求められています。

また、社会教育関係団体やNPOなど多様な主体が連携・協働を図ることで、新たな人材交流を生み出し、豊かなまちづくりにつながることを期待されます。

行政の役割

市民が生涯学習に親しむ機会を提供するとともに、市民に学習そのものの必要性・有効性について啓発することで市民の主体的な学びを育むことが求められています。また、学びの成果が適切に評価され、地域活動につながるという「『学び』と『活動』の循環」を形成することにより、生涯学習を通じた地域住民によるまちづくりの推進を図ります。

生涯学習を推進していくためには、市民ニーズや社会的背景を踏まえたうえで、あらゆる分野で取組を展開することが重要であり、各施策を総合的かつ計画的に推進していくことが重要です。施策の推進にあたっては、庁内関連部署との連携を図りながら取り組むとともに、取り組みの成果向上を図るため、市民、家庭、学校、地域、関係機関・団体などと十分な連携を図ります。

2. 計画の進行管理

本計画を実効性のあるものとしていくためには、計画を着実に実行し、その進捗状況や成果を点検・評価し、さらにそれを次の取り組みにフィードバックさせることが重要です。

計画の進行管理として、「PLAN（計画）」⇒「DO（実施）」⇒「CHECK（点検・評価）」⇒「ACTION（改善）」のPDCAサイクルにより、点検・評価の結果と改善すべき内容を反映しながら、各施策の取組を進めていきます。

PDCAサイクルは1年を基本単位として実施し、第3次豊川市生涯学習推進計画庁内検討部会、社会教育審議会、教育行政事務点検評価委員会*等において主要実施事業等の検証を行い、次年度の事業計画策定に向けての参考とします。

3. 評価指標

本計画で掲げた基本目標が、どの程度達成できているかを測るための客観的な指標として、総合計画の指標としている2年に一度の全市的な市民意識調査の結果や、各種事業実績、他の部門計画に掲げられた評価指標等を参考としながら、推進方策別に次のように評価指標を設定しています。

なお、計画期間は令和7年度までですが、計画の見直し作業の都合から、評価指標の目標年度を4年後の令和6年度としています。

推進方策別目標指標一覧

指 標 項 目	現状値 (H26年度)	現状値 (R1年度)	目 標 (R6年度)	資 料 元	担当課等
1-(1)とよかわオープンカレッジの 通常講座の年間開設数	284講座	280講座	370講座	主要な施策の 成果	生涯学習課
1-(2)生涯学習を行っている市民の 割合（総合計画）	60.5% (H27年値)	58.8%	65.0% (R 7年値)	市民意識調査	生涯学習課
1-(2)とよかわオープンカレッジ、 親子ふれあい工房、地域生涯 学習講座の親子向け講座の開 設数	58講座	112講座	120講座	担当課資料	生涯学習課
1-(3)市民一人当たりの図書等貸出 冊数（総合計画）	6.7冊	6.1冊	7.0冊 (R 7年値)	担当課資料	中央図書館
1-(3)週1日以上スポーツや運動を している市民の割合（総合計 画）	41.6% (H27年値)	44.4% (R 1年値)	62.0% (R 7年値)	市民意識調査	スポーツ課
1-(4)プリオ生涯学習会館の利用率 （時間帯平均稼働率） (令和3年4月よりプリオ生涯学習センターに名称変更)	38.7%	38.0%	45.0%	担当課資料	生涯学習課
2-(1)学習成果発表会の参加団体数	20団体	7団体 (全1回)	30団体 (全2回)	担当課資料	生涯学習課
2-(2)子ども・若者の悩みに関する 少年愛護センター相談支援件数	140件	292件	350件	担当課資料	生涯学習課
2-(3)とよかわオープンカレッジ通 常講座の開講講座の講師数	209人	182人	260人	担当課資料	生涯学習課
2-(4)地区市民館・公民館・生涯学 習会館におけるサークル数	766サークル	782サークル	800サークル	担当課資料	生涯学習課・ 市民協働国際課
3-(1)地域の課題解決のために開催 する地域生涯学習講座の講座 数	25講座	51講座	60講座	担当課資料	生涯学習課
3-(2)学校の日の参加者数	61,635人 (全3回)	43,551人 (全2回)	— ※R 2で終了	担当課資料	学校教育課
3-(3)地域生涯学習講座における郷 土理解と文化芸術の講座数	48講座	66講座	70講座	担当課資料	生涯学習課

社会教育委員名簿（敬称略）

氏 名	役 職 名
黒谷 豪	豊川市小中学校長会代表
塚越 京子	元豊川市PTA連絡協議会役員
井上 豊重	豊川市生涯学習推進員会議会長
天野 保幸	豊川市公民館連絡協議会会長（令和元年度委員）
木和田泰弘	豊川市公民館連絡協議会会長（令和2年度委員）
藤原 利江	豊川市子ども会連絡協議会常任理事
権田 静司	豊川市青少年育成ボランティア会代表
柴田 功己	豊川市スポーツ推進委員会委員長
細野 文治	東三河地区家庭教育運営協議会委員
中村 詠子	（特非）とよかわ子育てネット理事
穴吹富貴子	豊川おやこ文化の会代表
片桐早奈美	よんでよんでの会代表
山川 和明	一般社団法人とよかわオープンカレッジ副理事長
大光明隆見	光明寺幼稚園園長

第3次豊川市生涯学習推進計画庁内検討部会構成課等

構 成 課 等	
福祉部介護高齢課	産業環境部環境課
子ども健康部子育て支援課	教育委員会学校教育課
子ども健康部保健センター	教育委員会スポーツ課
市民部市民協働国際課	教育委員会中央図書館
市民部文化振興課	教育委員会生涯学習課

生涯学習推進計画改訂版策定の経緯

年度	月日	会議等	内 容
令和 元年度	5月28日	第1回社会教育審議会	・第3次豊川市生涯学習推進計画に掲げた施策の平成30年度実績の検証について
	8月8日	社会教育委員第1回ワークショップ	・「第3次豊川市生涯学習推進計画」中間見直しの基本方針等について ・令和元年10月実施「豊川市の生涯学習に関する市民アンケート調査」アンケート（案）について
	9月4日	第3次豊川市生涯学習推進計画庁内検討部会	・第3次豊川市生涯学習推進計画進捗状況について
	9月25日	第2回社会教育審議会	・第3次豊川市生涯学習推進計画中間見直しの基本方針等について ・第3次豊川市生涯学習推進計画改訂版骨子（案）について ・令和元年度実施「豊川市の生涯学習に関する市民アンケート調査」（案）について
	9月25日	社会教育委員第2回ワークショップ	・第3次豊川市生涯学習推進計画進捗状況 未実施事業について
	10月11日～ 11月1日	生涯学習に関する市民アンケート調査実施	・満16歳以上の男女各1,000人計2,000人を無作為に抽出し、アンケート用紙を郵送による方法で実施
	12月9日	社会教育委員第3回ワークショップ	・豊川市生涯学習に関する市民アンケート調査結果について
	1月21日	社会教育委員による先進地視察（豊田市立浄水中学校及び浄水交流館）	・豊田市立浄水中学校：「地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）」の活動とその課題 ・浄水交流館：学校施設と共用化を図った新しい形の社会教育施設
	2月18日	第3回社会教育審議会	・令和元年度実施「豊川市の生涯学習に関する市民アンケート調査」報告書について
令和 2年度	5月26日	第1回社会教育審議会（書面会議）	・第3次生涯学習推進計画関連事業の過去10年間の実施状況等一覧（社会教育関係3課分）について
	8月27日	第1回第3次豊川市生涯学習推進計画庁内検討部会	・第3次豊川市生涯学習推進計画進捗状況について ・第3次生涯学習推進計画中間見直しについて
	8月28日	社会教育委員ワークショップ	・第3次生涯学習推進計画改訂版（素案）について
	9月29日	第2回社会教育審議会	・第3次生涯学習推進計画改訂版（原案）について
	11月	第2回第3次豊川市生涯学習推進計画庁内検討部会（書面会議）	・第3次生涯学習推進計画改訂版最終案について
	3月10日	第3回社会教育審議会	・第3次生涯学習推進計画改訂版最終案の決定
	3月19日	教育委員会定例会	・第3次生涯学習推進計画改訂版最終案の報告
	3月末日	計画書公表	・市議会、関係者等へ配布・公表

令和元年度生涯学習に関する市民アンケート調査結果

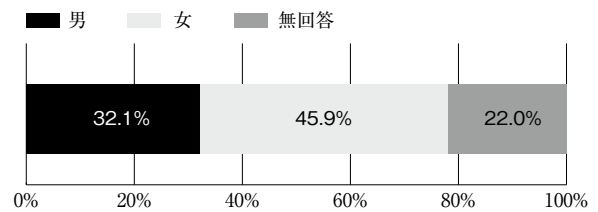
調査概要

- 調査対象：豊川市に居住する16歳以上の計2,000人（男1,000人、女1,000人）
- 抽出方法：住民基本台帳により、単純無作為抽出
- 調査方法：質問紙による郵送法（配送、回収共）
- 調査期間：令和元年10月11日（金）～11月1日（金）
- 回収結果：回収数766件（有効764件、無効2件）、有効回収率38.2%

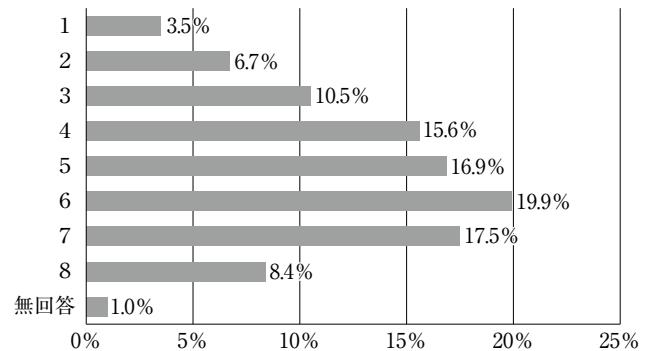
集計結果

問1 あなた自身のことについて、お尋ねします。

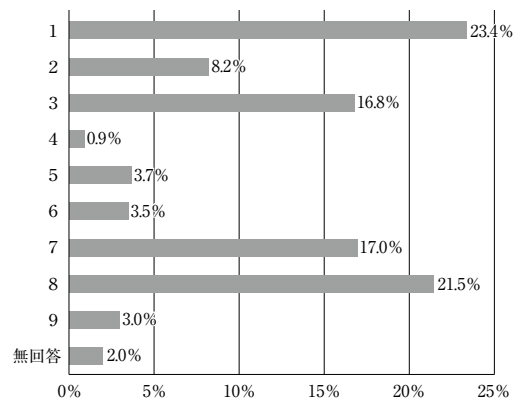
問1(1) 性別			
	選択肢	件数	%
1	男	245	32.1%
2	女	351	45.9%
	無回答	168	22.0%
	回答者数	764	100.0%



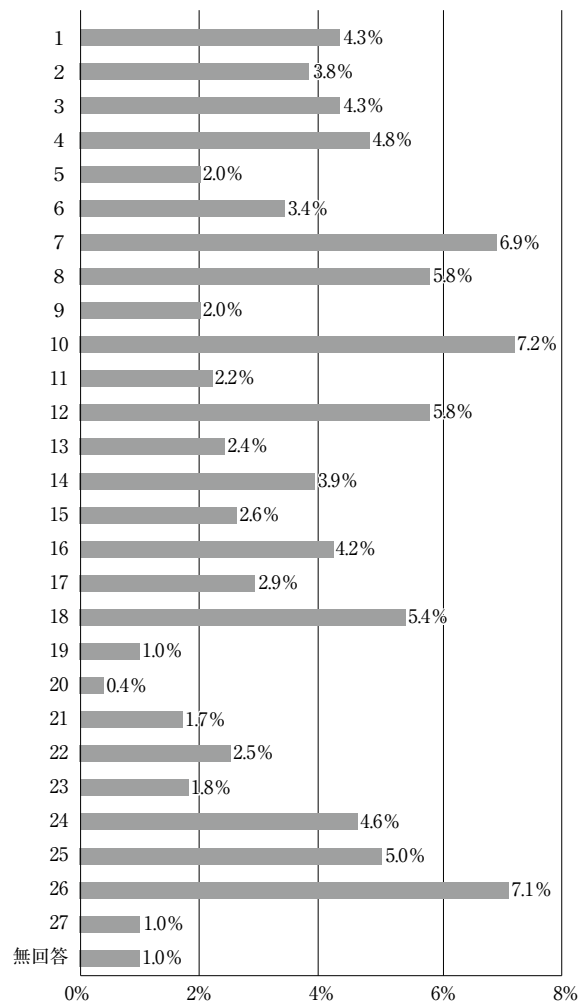
問1(2) 年齢			
	選択肢	件数	%
1	10歳代	27	3.5%
2	20歳代	51	6.7%
3	30歳代	80	10.5%
4	40歳代	119	15.6%
5	50歳代	129	16.9%
6	60歳代	152	19.9%
7	70歳以上	134	17.5%
8	80歳以上	64	8.4%
	無回答	8	1.0%
	回答者数	764	100.0%



問 1(3) 職業			
	選択肢	件数	%
1	会社員	179	23.4%
2	自営業	63	8.2%
3	主婦（夫）	128	16.8%
4	教員	7	0.9%
5	学生	28	3.7%
6	公務員	27	3.5%
7	パート・アルバイト	130	17.0%
8	無職	164	21.5%
9	その他	23	3.0%
	無回答	15	2.0%
	回答者数	764	100.0%

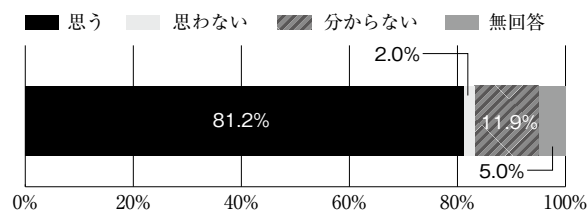


問 1(4) お住いの小学校区名			
	選択肢	件数	%
1	豊川小学校区	33	4.3%
2	東部小学校区	29	3.8%
3	桜木小学校区	33	4.3%
4	三蔵子小学校区	37	4.8%
5	千両小学校区	15	2.0%
6	牛久保小学校区	26	3.4%
7	中部小学校区	53	6.9%
8	八南小学校区	44	5.8%
9	平尾小学校区	15	2.0%
10	国府小学校区	55	7.2%
11	桜町小学校区	17	2.2%
12	御油小学校区	44	5.8%
13	天王小学校区	18	2.4%
14	代田小学校区	30	3.9%
15	金屋小学校区	20	2.6%
16	豊小学校区	32	4.2%
17	一宮東部小学校区	22	2.9%
18	一宮西部小学校区	41	5.4%
19	一宮南部小学校区	8	1.0%
20	萩小学校区	3	0.4%
21	長沢小学校区	13	1.7%
22	赤坂小学校区	19	2.5%
23	御津北部小学校区	14	1.8%
24	御津南部小学校区	35	4.6%
25	小坂井東小学校区	38	5.0%
26	小坂井西小学校区	54	7.1%
27	校区不明	8	1.0%
	無回答	8	1.0%
	回答者数	764	100.0%



問2 「生涯学習」とは一人ひとりが自分の人生を楽しく豊かにするために、生涯のいろいろな時期に、自分から進んで行う学習やスポーツ、文化活動、ボランティア活動、趣味などの様々な活動のことをいいます。あなたは、生涯学習が大切だと思いますか。

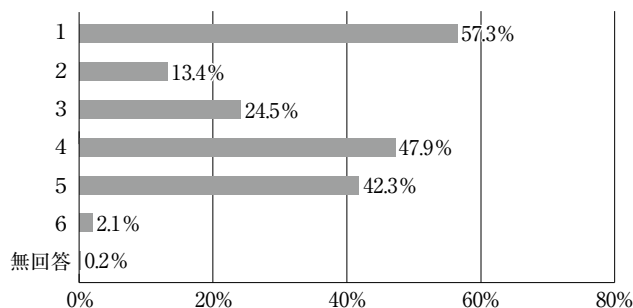
	選択肢	件数	%
1	思う	620	81.2%
2	思わない	15	2.0%
3	わからない	91	11.9%
	無回答	38	5.0%
	回答者数	764	100.0%



【問2で「1. 思う」とお答えいただいた方にお尋ねします。】

問3 あなたが生涯学習を大切に思う理由として、主なものを2つまで選んでください。

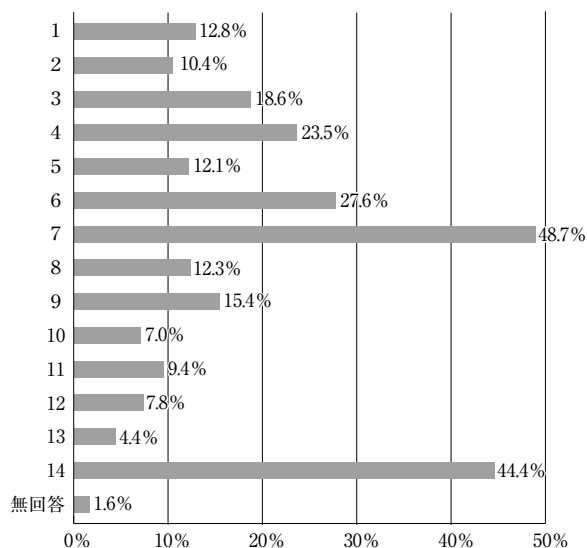
	選択肢	件数	%
1	自由時間（余暇）の活用や充実のため	355	57.3%
2	仕事をするための知識・技能を得るため	83	13.4%
3	社会や文化への理解を深めるため	152	24.5%
4	健康の維持・向上のため	297	47.9%
5	同好の仲間づくり、新しい人との出会いや交流のため	262	42.3%
6	その他	13	2.1%
	無回答	1	0.2%
	回答者数	620	



【すべての方にお尋ねします。】

問4 あなたは現在（ここ1年以内に実施した場合を含む）、生涯学習活動（学んでいるもの、取り組んでいるもの）と思われる活動を行っていますか。次の中から主なものを3つまで選んでください。（学生の場合、部活・クラブ活動等も含む）。

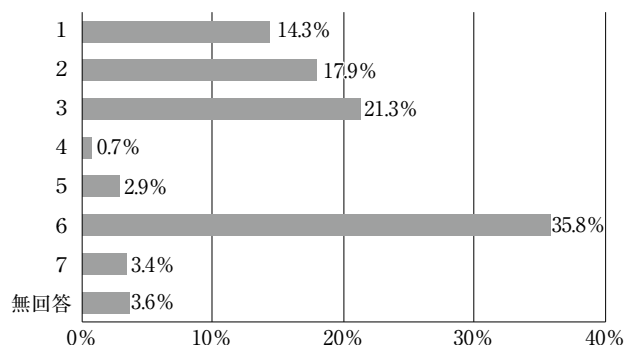
	選択肢	件数	%
1	教育に関するもの	53	12.8%
2	福祉に関するもの	43	10.4%
3	情報通信に関するもの	77	18.6%
4	趣味に関するもの	97	23.5%
5	生活・実用に関するもの	50	12.1%
6	健康づくりに関するもの	114	27.6%
7	スポーツ・レジャーに関するもの	180	43.7%
8	芸能・音楽に関するもの	51	12.3%
9	美術・工芸・手工芸に関するもの	64	15.4%
10	科学、教養に関するもの	29	7.0%
11	職業・資格に関するもの	39	9.4%
12	語学・国際理解に関するもの	30	7.3%
13	その他	18	4.4%
14	特に行っていない	339	44.4%
	無回答	12	1.6%
	回答者数	1,184	



【問4で「1から13」に○をつけた方にお尋ねします。】

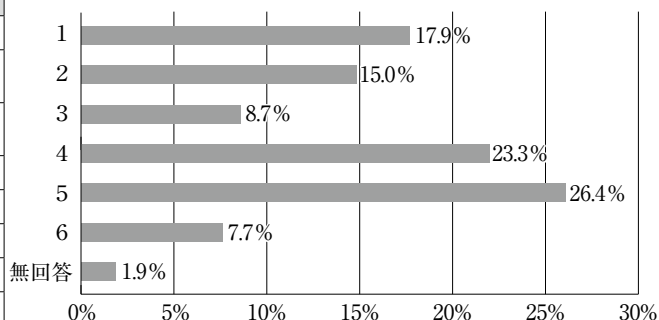
問5(1) 主にどんな方法での活動ですか。(1つに○)

	選択肢	件数	%
1	市の講座・教室（とよかわオープンカレッジ含む）	59	14.3%
2	民間の講座・教室	74	17.9%
3	団体・サークル活動	88	21.3%
4	通信教育・放送教育	3	0.7%
5	eラーニング等インターネットを活用した通信教育	12	2.9%
6	独自・個人	148	35.8%
7	その他	14	3.4%
	無回答	15	3.6%
	回答者数	414	100.0%



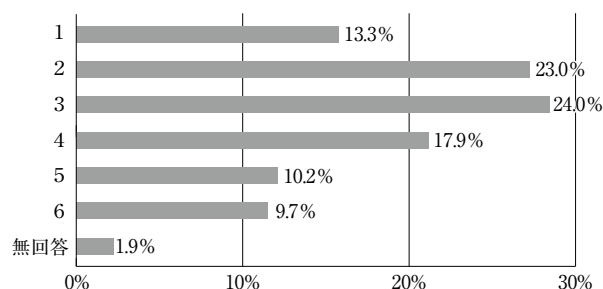
問5(2) 主にどんな場所での生涯学習活動ですか。(1つに○)

	選択肢	件数	%
1	公民館・地区市民館	74	17.9%
2	生涯学習会館・図書館・文化会館などの公共施設	62	15.0%
3	総合体育館・野球場・小中学校施設等の公共体育施設	36	8.7%
4	民間の施設	92	22.3%
5	自宅	109	26.4%
6	その他	32	7.7%
	無回答	8	1.9%
	回答者数	414	100.0%



問5(3) 生涯学習活動を行っている回数はどれくらいですか。(1つに○)

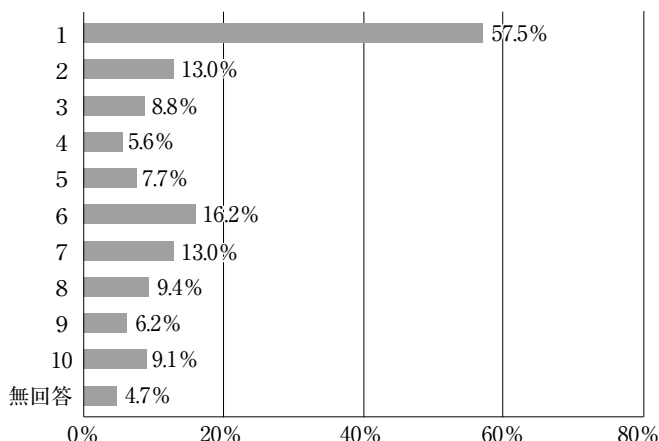
	選択肢	件数	%
1	ほとんど毎日	55	13.3%
2	週に2～3日	95	23.0%
3	週1回程度	99	24.0%
4	月2回程度	74	17.9%
5	月1回程度	42	10.2%
6	年に数回	40	9.7%
	無回答	8	1.9%
	回答者数	413	100.0%



【問4で「14. 特に行っていない」に○をつけた方にお尋ねします。】

問6 それはどのような理由からですか。次の項目から主なものを2つまで選んでください。

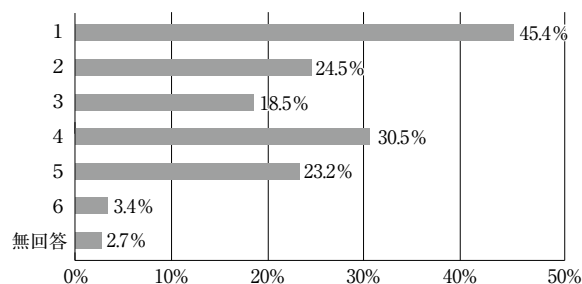
	選択肢	件数	%
1	時間の余裕がない	195	57.5%
2	幼児や病人の世話で留守にできない	44	13.0%
3	希望するものを学べる機会がない	30	8.8%
4	近くに利用できる施設や場所がない	19	5.6%
5	講座などの学習情報が不足している	26	7.7%
6	何を学んでよいかわからない	55	16.2%
7	一緒に行う仲間がいない	44	13.0%
8	学習の必要性を感じない	32	9.4%
9	学習したくても学習できる環境が整っていない	21	6.2%
10	その他	31	9.1%
	無回答	16	4.7%
	回答者数	339	



【すべての方にお尋ねします。】

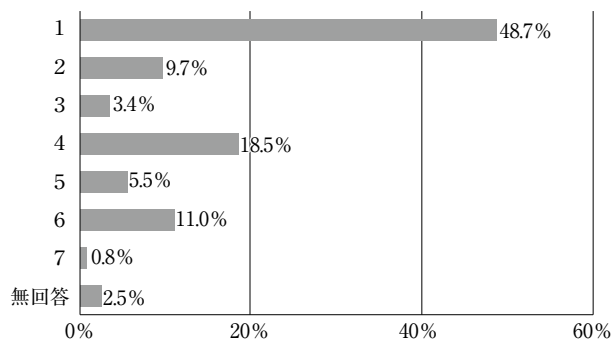
問7 あなたは、どんな分野の学習情報を望みますか。主なものを2つまで選んでください。

	選択肢	件数	%
1	市の講座・催物	347	45.4%
2	カルチャーセンターなどの民間の講座・催物の情報	187	24.5%
3	団体・サークルの催物や活動情報	141	18.5%
4	地域の催物に関する情報	233	30.5%
5	わからない	177	23.2%
6	その他	26	3.4%
	無回答	21	2.7%
	回答者数	764	



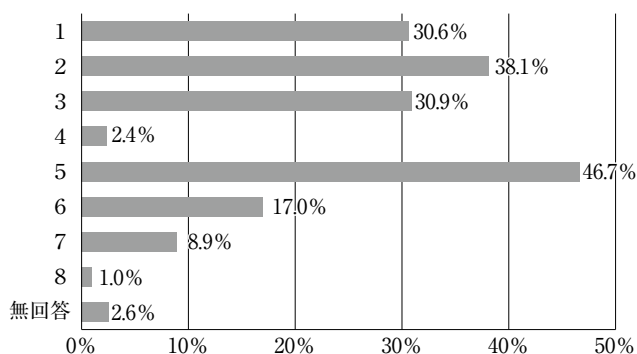
問8 市の生涯学習事業（とよかわオープンカレッジを含む）についての情報を得る方法としては、何が重要ですか。次の項目から1つ選んでください。

	選択肢	件数	%
1	広報とよかわの掲載内容の充実	372	48.7%
2	生涯学習ガイドブック等情報誌の充実	74	9.7%
3	公共施設ごとに学習情報コーナーを設ける	26	3.4%
4	インターネットやホームページ等を活用した情報の提供	141	18.5%
5	折込チラシや情報誌など有料広告を活用した情報の提供	42	5.5%
6	わからない	84	11.0%
7	その他	6	0.8%
	無回答	19	2.5%
	回答者数	764	100.0%



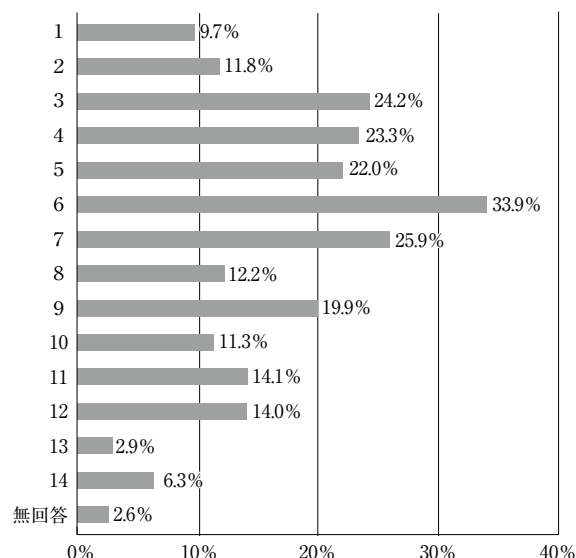
問9 市が開催する講座や教室について、大切な点はどのようなことだと思いますか。主なものを2つまで選んでください。

	選択肢	件数	%
1	たくさんの種類があり、希望のテーマの選択ができる	234	30.6%
2	都合のよい時間帯に学ぶことができる	291	38.1%
3	近くの施設で学習できる	236	30.9%
4	託児や手話などの用意がある	18	2.4%
5	安い費用で学習できる	357	46.7%
6	継続して学ぶ機会がある	130	17.0%
7	わからない	68	8.9%
8	その他	8	1.0%
	無回答	20	2.6%
	回答者数	764	



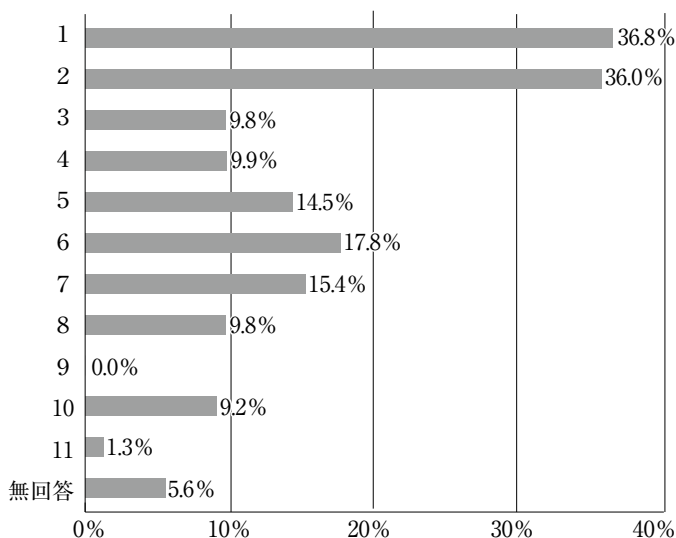
問10 今後、学びたい学習分野はどれですか。次の項目から主なものを3つまで選んでください。

	選択肢	件数	%
1	教育に関するもの	74	9.7%
2	福祉に関するもの	90	11.8%
3	情報通信に関するもの	185	24.2%
4	趣味に関するもの	178	23.3%
5	生活・実用に関するもの	168	22.0%
6	健康づくりに関するもの	259	33.9%
7	スポーツ・レジャーに関するもの	198	25.9%
8	芸能・音楽に関するもの	93	12.2%
9	美術・工芸・手工芸に関するもの	152	19.9%
10	科学・教養に関するもの	86	11.3%
11	職業・資格に関するもの	108	14.1%
12	語学・国際理解に関するもの	107	14.0%
13	その他	22	2.9%
14	学びたいものはない	48	6.3%
	無回答	20	2.6%
	回答者数	764	



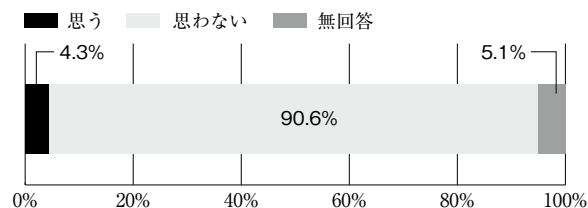
問11 今後生涯学習充実のための施設を充実していく場合、どれが良いと思いますか。次の項目から2つまで選んでください。

	選択肢	件数	%
1	図書館、文化会館、生涯学習会館などの既存施設を改善する	281	36.8%
2	公民館・地区市民館などの身近な施設を改善する	275	36.0%
3	学校開放を促進し、学校と地域で共用できる施設をつくる	75	9.8%
4	子どもや女性が活動できる施設をつくる	76	9.9%
5	プリオ生涯学習会館を生涯学習の拠点として改善する	111	14.5%
6	自然と親しめる施設を増やす	136	17.8%
7	スポーツ施設を増やす	118	15.4%
8	各種施設に情報コーナーを設けるなど情報機能を充実する	75	9.8%
9	施設の改善や新設はあまり必要でない	0	0.0%
10	わからない	70	9.2%
11	その他	10	1.3%
	無回答	43	5.6%
	回答者数	764	



問12 今後、あなたの知識・技能を生かして、生涯学習講座の講師・指導等を行ってみたいと思いますか

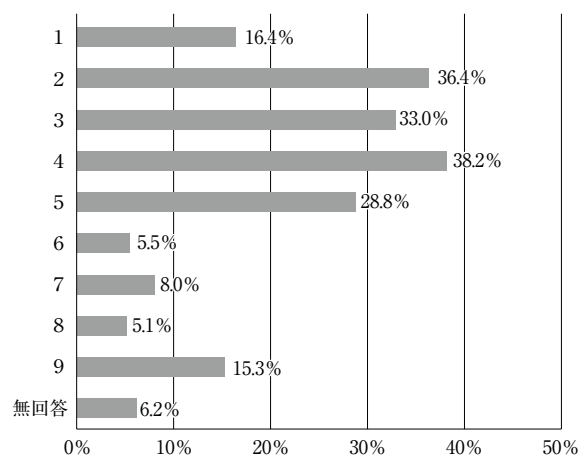
	選択肢	件数	%
1	思う	33	4.3%
2	思わない	692	90.6%
	無回答	39	5.1%
	回答者数	764	100.0%



【すべての方にお尋ねします。】

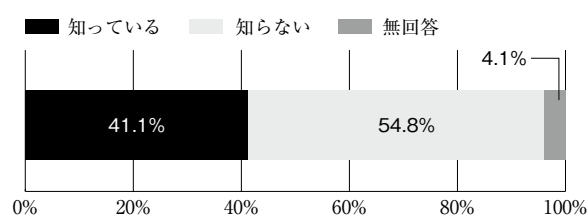
問14 あなたは、「生涯学習」を通じて身につけた知識・技能や経験をどのように生かしていますか。3つまでお選びください。

	選択肢	件数	%
1	仕事や就職の上で生かしている	125	16.4%
2	家庭・日常の生活に生かしている	278	36.4%
3	健康増進に役立っている	252	33.0%
4	自分の人生がより豊かになっている	292	38.2%
5	友人・仲間づくりに生かしている	220	28.8%
6	ボランティア活動に生かしている	42	5.5%
7	地域や社会での活動に生かしている	61	8.0%
8	その他	39	5.1%
9	生かしていない	117	15.3%
	無回答	47	6.2%
	回答者数	764	



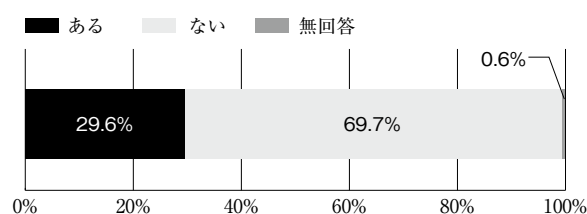
問15 平成21年に開設した市民参加型生涯学習講座「とよかわオープンカレッジ」についてお尋ねします。

問15(1) 「とよかわオープンカレッジ」をご存知ですか。			
	選択肢	件数	%
1	知っている	314	41.1%
2	知らない	419	54.8%
	無回答	31	4.1%
	回答者数	764	100.0%

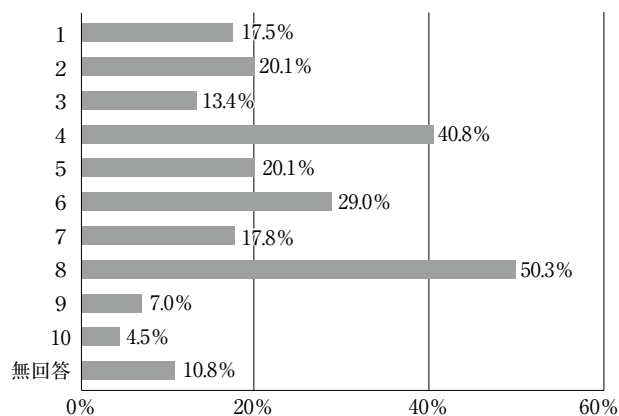


【(2)～(4)は問15(1)で「1. 知っている」とお答えいただいた方にお尋ねします。】

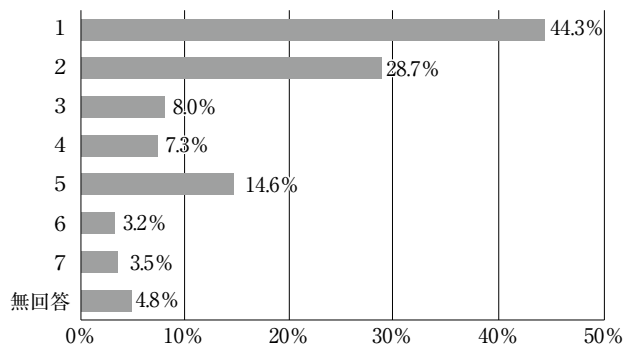
問15(2) 「とよかわオープンカレッジ」を受講されたことがありますか。			
	選択肢	件数	%
1	ある	93	29.6%
2	ない	219	69.7%
	無回答	2	0.6%
	回答者数	314	100.0%



問15(3) 「とよかわオープンカレッジ」で今後受講したい講座の分野を3つお答えください。			
	選択肢	件数	%
1	フラワー	55	17.5%
2	リラクゼーション・心理	63	20.1%
3	伝統文化	42	13.4%
4	趣味・生活・料理	128	40.8%
5	絵画・美術・音楽	63	20.1%
6	教養・文学・語学	91	29.0%
7	手工芸・服飾	56	17.8%
8	健康・フィットネス	158	50.3%
9	親子向け講座	22	7.0%
10	その他	14	4.5%
	無回答	34	10.8%
	回答者数	314	



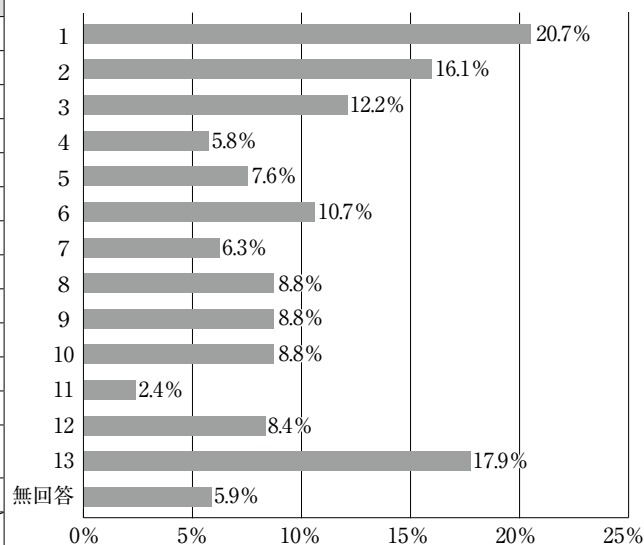
問15(4) どのような会場であれば受講しやすいですか。			
	選択肢	件数	%
1	自宅からの移動時間が10分以内にある施設	139	44.3%
2	自宅からの移動時間が30分以内にある施設	90	28.7%
3	公共交通機関で通える施設	25	8.0%
4	商業施設内または商業施設に隣接する施設	23	7.3%
5	ブリオ生涯学習会館など中心市街地に立地する公共施設	46	14.6%
6	自宅（eラーニングなどインターネットを使用して）	10	3.2%
7	その他	11	3.5%
	無回答	15	4.8%
	回答者数	314	



【すべての方にお尋ねします。】

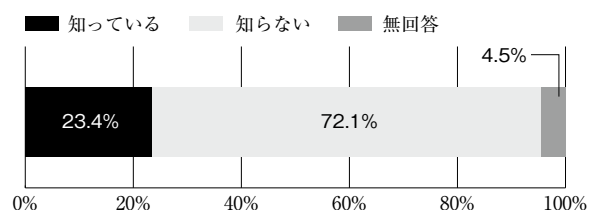
問16 あなたが生涯学習活動をする場合、参加しやすい曜日、時間帯についてお尋ねします。(複数回答可)

	選択肢	件数	%
1	平日の午前	158	20.7%
2	平日の午後	123	16.1%
3	平日の夜間	93	12.2%
4	平日ならいつでも可	44	5.8%
5	土曜日の午前	58	7.6%
6	土曜日の午後	82	10.7%
7	土曜日の夜間	48	6.3%
8	土曜日ならいつでも可	67	8.8%
9	日曜日・祝日の午前	67	8.8%
10	日曜日・祝日の午後	67	8.8%
11	日曜日・祝日の夜間	18	2.4%
12	日曜日・祝日ならいつでも可	64	8.4%
13	いつでも好きな時間帯、曜日で(すきま時間で)	137	17.9%
	無回答	45	5.9%
	回答者数	764	



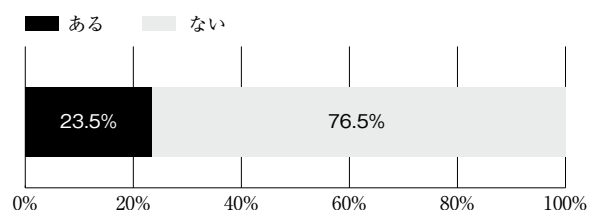
問17 市が発行している生涯学習情報誌「生涯学習ガイドブック」について、お尋ねします。

問17(1) 「生涯学習ガイドブック」をご存知ですか。			
	選択肢	件数	%
1	知っている	179	23.4%
2	知らない	551	72.1%
	無回答	34	4.5%
	回答者数	764	100.0%



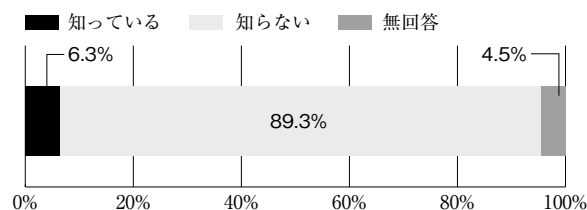
【問17(1)で「1. 知っている」とお答えいただいた方にお尋ねします。】

問17(2) 「生涯学習ガイドブック」を活用されたことがありますか。			
	選択肢	件数	%
1	ある	42	23.5%
2	ない	137	76.5%
	回答者数	179	100.0%



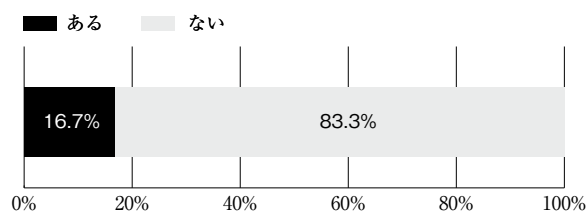
問18 市ホームページの中にある生涯学習情報サイト「まなびネットとよかわ」について、お尋ねします。

問18(1) 「まなびネットとよかわ」をご存知ですか。			
	選択肢	件数	%
1	知っている	48	6.3%
2	知らない	682	89.3%
	無回答	34	4.5%
	回答者数	764	100.0%



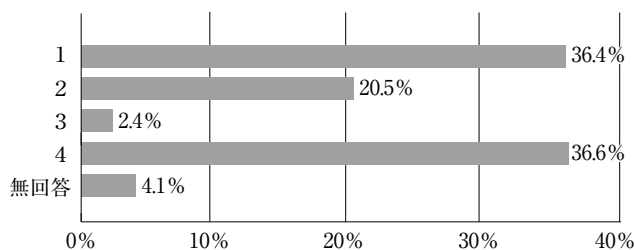
【問18（1）で「1. 知っている」とお答えいただいた方にお尋ねします。】

問18(2) 「まなびネットとよかわ」を活用されたことがありますか。			
	選択肢	件数	%
1	ある	8	16.7%
2	ない	40	83.3%
	回答者数	48	100.0%



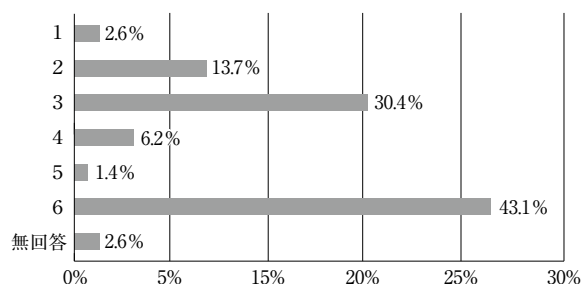
【すべての方にお尋ねします。】

問19 市が行っている生涯学習に関する広報や情報提供は十分だと思いますか。			
	選択肢	件数	%
1	もっと情報提供をしてほしい	278	36.4%
2	今のままでよい	157	20.5%
3	インターネットの情報で足りる	18	2.4%
4	わからない	280	36.6%
	無回答	31	4.1%
	回答者数	764	100.0%



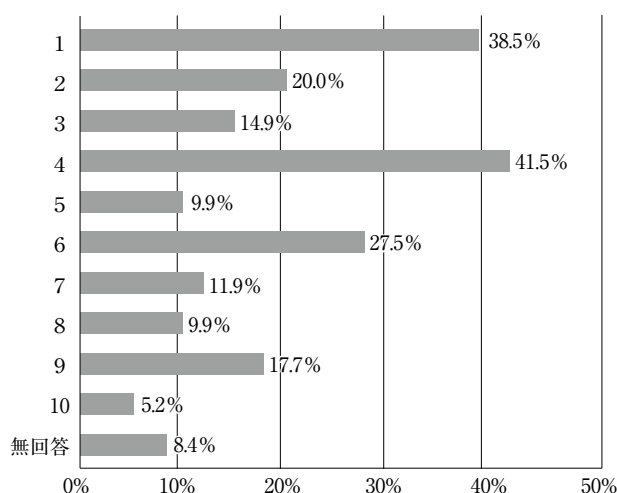
問20 市の生涯学習への取り組みに満足していますか。

	選択肢	件数	%
1	かなり満足	20	2.6%
2	やや満足	105	13.7%
3	どちらでもない	232	30.4%
4	やや不満	47	6.2%
5	かなり不満	11	1.4%
6	わからない	329	43.1%
	無回答	20	2.6%
	回答者数	764	100.0%



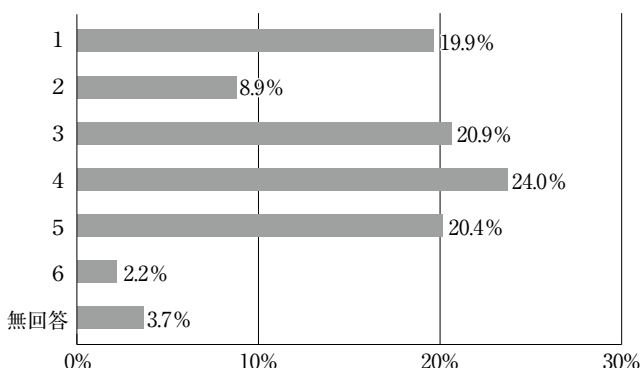
問21 あなたは市の生涯学習への取り組みとして、今後どのようなことが重要だと思いますか。あなたの考えに近いものを3つまでお選びください。

	選択肢	件数	%
1	講座・教室などの内容を充実する	294	38.5%
2	講師・指導者の充実を図る	153	20.0%
3	I C Tを活用した学習機会を充実させる	114	14.9%
4	市民の誰もが参加できるようなライフステージに応じた生涯学習活動を推進する	317	41.5%
5	学習に関する相談窓口を充実する	76	9.9%
6	学習に関する情報提供を充実する	210	27.5%
7	地域の歴史や文化を学ぶ講座を充実する	91	11.9%
8	学びを地域や社会に還元するための人材育成	76	9.9%
9	学びの場となるグループ・サークル活動の支援	135	17.7%
10	その他	40	5.2%
	無回答	64	8.4%
	回答者数	764	



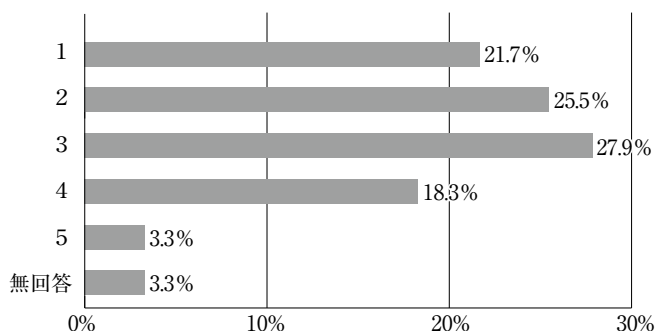
問22 家庭の教育力を向上するために必要なことであなたの考えにもっとも近いものを1つお選びください。

	選択肢	件数	%
1	豊川市などが、N P O法人、幼稚園・保育園、P T A、子ども会、民間事業者及び学校と連携して、広く家庭教育に関する親の学習の場を設ける	152	19.9%
2	豊川市などが、子育てに悩む親のために、家庭教育に関する様々な情報発信を行う	68	8.9%
3	豊川市などが、子育てに悩む親のために、相談機関や支援機関を充実させる	160	20.9%
4	仕事と家庭生活の調和（ワークライフバランス）を図るために企業が子育てを応援	183	24.0%
5	わからない	156	20.4%
6	その他	17	2.2%
	無回答	28	3.7%
	回答者数	764	100.0%



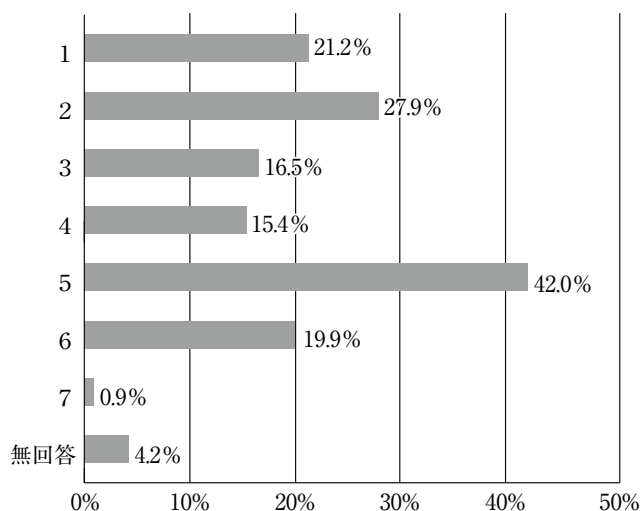
問23 学校や家庭だけでなく、地域で子どもを育てるために重要なことであなたの考えにもっとも近いものを1つお選びください。

	選択肢	件数	%
1	学校と地域がともに教育に取り組めるような組織を作り、ともに活動していく	166	21.7%
2	地域住民と地域の学校に通う子どもたちと交流する場を設ける	195	25.5%
3	子ども会と老人会が連携するなどして防災など地域課題に取り組むような多世代交流の場を設ける	213	27.9%
4	わからない	140	18.3%
5	その他	25	3.3%
	無回答	25	3.3%
	回答者数	764	100.0%



問24 民間事業者と連携して実施する生涯学習事業で、あなたが実現を期待するものを2つお選びください。

	選択肢	件数	%
1	民間事業者が持つ知識やノウハウを活用するため、民間事業者の社員等を講師として派遣する生涯学習事業	162	21.2%
2	民間事業者が提供している商品やサービスを活用したものづくり体験のような生涯学習事業	213	27.9%
3	民間事業者の業務内容を学ぶ職業体験のような生涯学習事業	126	16.5%
4	民間事業者のCSR活動の一環として行なわれる植樹活動や環境教育、ものづくり教室など生涯学習事業	118	15.4%
5	普段は見学できない民間事業者の生産現場などを複数見学し、豊川市のものづくりなどを知るような生涯学習事業	321	42.0%
6	わからない	152	19.9%
7	その他	7	0.9%
	無回答	32	4.2%
	回答者数	764	



あ行

ICT

情報・通信に関する技術の総称。「Information and Communication Technology」。従来から使われている「IT（Information Technology）」に代わる言葉として使われている。

アクティブシニア

自分なりの価値観をもち、定年退職後にも、趣味や様々な活動に意欲的な、元気なシニア層を指す。

eラーニング

インターネット上でできる教育・学習形態。IT技術を活用した教育システムで、24時間いつでも、どこでもアクセスが可能なことから、受講者は時間や場所の制約を受けずに学習できる利点がある。

SNS

ソーシャルネットワーキングサービスの略。ネット上に自分の履歴書を載せた上で他の会員とメッセージを交換し交友を広げるサービス。電子メールなら1対1の関係だが、不特定多数と交流できるのが特徴。

SDGs

持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）のことで、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標で、持続可能な世界を実現するための17のゴール、169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っている。

か行

キャリア教育

学校教育と職業生活との円滑な接続を図るため、望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身につけさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育。

教育行政事務点検評価委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価を行うにあたり、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するため、設置するもの。

さ行

スマートフォン

パーソナルコンピュータなみの機能をもたせた携帯電話の総称。略してスマホと呼ばれる。

た行

地域学校協働活動

幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子ども達の学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」をめざして、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動のこと。

豊川市公共施設適正配置計画

豊川市が公共施設の老朽化に伴う統廃合、機能や利用圏域の重複する施設の多機能化・複合化を推進するため、実施プランとなる計画のこと。

な行

ニート

15歳以上35歳未満の仕事についておらず、教育や職業訓練も受けていない状態、もしくは人を指す。

ネットワーク

本計画書では、人間や組織のつながりによる社会的ネットワークをいう。本来は、通信で結ばれた複数のコンピューター及び関連機器全体やその通信路を指す。

は行

まなびネットとよかわ

豊川市が提供する生涯学習サイトで、豊川市教育委員会生涯学習課が主催する「地域生涯学習講座」や「放課後子ども教室」、同課が共催する「とよかわオープンカレッジ」の講座情報を一元的に提供し、市民の生涯学習活動を支援している。

ら行

ライフステージ

年齢の変化に伴って変化する生活段階のこと。年代別の生活状況。人間の一生における出生から、就学、就職、結婚、出産、子育て、退職など、人生の節目によって生活スタイルが変わることや、これに注目した考え方。

リカレント教育

社会人になってからも、学校などの教育機関に戻り、学習し、また 社会に出ていくことを生涯続けることができる教育システムのこと。リカレント（recurrent）には繰り返しや循環といった意味があり、「学び直し」と表現されることもある。

わ行

ワーク・ライフ・バランス

「仕事と家庭生活の調和」と訳される。もともとは、1970年代以降の欧米で、働きながら子育てをする人や長時間労働によるストレスで健康を損ないつつある労働者が増化したことを背景に、こうした人々に必要なものとして用いられた言葉。

第3次豊川市生涯学習推進計画進捗状況表
1. 学びを育むきっかけづくり

施策の方向性		推進方策	具体的施策	施策項目	施策事業名	担当課	過去5年間の実施状況等一覧					
							指標	H27	H28	H29	H30	R1
基本目標 豊かな人生を自らが築く学習社会を確立します	1 学びを育むきっかけづくり	(1) 多様なニーズに対応した学習メニューの展開	①子ども向けの各種体験講座・教室の開催	1 野外活動機会の充実	デイキャンプ（ジュニアリーダー） 星空観望会（星空観察会含む） ファミリーキャンプ	生涯学習課 中央図書館 スポーツ課	回数 回数 回数	1 5 1	1 6 1	1 6 1	1 4 1	
				2 ものづくりに関する教室の開催	子どもものづくり教室 放課後子ども教室	生涯学習課 生涯学習課	回数 講座数	12 111	12 107	12 103	12 99	
				3 文化・スポーツに関する教室の開催	トップアスリートふれあい事業 学びとふれあい子ども教室（サマースクール）	スポーツ課 学校教育課	回数 参加者数	2 17,513	2 17,376	3 13,997	2 13,806	
				4 子どものときから文化芸術に親しむ事業の充実	学校へのアウトリーチ事業 子ども向けワークショップ ブックスタート事業	文化振興課 文化振興課 子育て支援課	回数 回数 回数	15 17 36	11 15 36	18 16 36	17 14 36	
				5 子ども読書活動の推進	読み聞かせ（おはなしのへや） マイブックプロジェクト	中央図書館 中央図書館	回数 購入者数	135 1,833	149 1,730	160 1,687	171 1,651	
			②学びを広げる市域生涯学習の推進	1 とよかわオープンカレッジ開催講座の充実	オープンカレッジ通常講座	生涯学習課	講座成立数	332	357	356	284	
				2 高等教育機関との連携	オープンカレッジ特別講座	生涯学習課	講座受講者数	4,337	4,642	4,775	4,017	
				3 近隣市等との連携講座の開催	東三河連携講座（豊川市会場分） ふるさと再発見講座	生涯学習課 生涯学習課	受講者数 講座数	128 1	195 1	72 1	— 1	
				4 郷土理解のための講座等の充実	とよかわ歴史散歩 ウォーキング	生涯学習課	回数	—	—	—	1	
					平和公園講座	生涯学習課	回数	—	—	—	3	
					豊川海軍工廠体験談を聴く会	生涯学習課	回数	—	—	—	3	
					豊川海軍工廠跡地見学会	生涯学習課	回数	—	—	—	6	
					大橋屋「はたごde」事業	生涯学習課	回数	—	—	—	4	
					ギャラリートーク	文化振興課	回数	12	15	9	11	
		観光資源探訪ツアー	商工観光課	参加者数	58	57	43	44				
		③地域の特性を生かした地域生涯学習の推進	1 地域生涯学習における地域の特色を生かした講座の開催	地域生涯学習講座	生涯学習課	講座数	329	338	335	347		
			2 地域課題解決型講座の充実		生涯学習課	受講者数	5,343	5,628	5,268	5,382		
		④現代的課題に対応した学習機会の充実	1 まちづくり出前講座の利便性向上	まちづくり出前講座	生涯学習課	講座数	84	113	67	71		
			2 国際交流及び多文化共生の推進	中学生姉妹都市派遣	市民協働国際課	回数	1	1	2	1		
			3 環境教育・環境学習の推進	子ども環境体験ツアー	環境課	回数	3	3	3	3		
				ごみ分別チェック隊（小学生対象分別講座）	清掃事業課	受講者数	15	20	34	33		
				食品ロス削減クッキング講座（小学生対象）	清掃事業課	受講者数	—	—	—	18		
			4 男女共同参画及び人権教育の推進	男女共同参画関連事業 L G B T（性的マイノリティ）への基礎理解セミナー	人権交通防犯課 人権交通防犯課	事業数 講座数	7 —	8 —	8 —	8 1		
		⑤民間団体・民間事業者との連携	1 民間団体等と連携した生涯学習の推進	生涯学習講座	生涯学習課	企業数	—	—	1	8		
			2 商工会議所との事業連携の促進	生涯学習講座	生涯学習課	—	—	—	—	—		
		(2) ライフスタイルに合わせた学習機会の提供	①ワーク・ライフ・バランスに配慮した学習機会の提供	1 勤労者世代に配慮した講座・教室等の開催	—	生涯学習課	—	—	—	—		
				2 ワーク・ライフ・バランスに関する普及・啓発	パートナーシップ推進出前講座／男女共同参画情報誌「ゆい」	人権交通防犯課	回数	—	2	2		
					—	子育て支援課	—	—	—	—		
	②子育て世代が参加しやすい学習機会の提供		1 親子で参加できる講座の充実	オープンカレッジ親子向け講座	生涯学習課	講座数	42	48	63	61		
				親子ふれあい工房	生涯学習課	講座数	6	8	8	8		
				地域生涯学習講座の親子向け講座	生涯学習課	講座数	31	36	35	42		
				子育てサークル支援	子育て支援課	サークル数	19	17	16	16		
				子育てサポート事業	子育て支援課	回数	36	36	36	36		
				親子あそび教室	子育て支援課	回数	64	64	64	62		
				妊娠婦教室	保健センター	回数	20	20	19	20		
				子育て教室	保健センター	回数	108	104	83	88		
				親子で学ぶ思春期教室	保健センター	回数	1	1	1	1		
				2 各種講座等開催に伴う託児制度の充実	託児付き事業の実施（他部署への紹介含む。） 男女共生セミナー	人権交通防犯課 人権交通防犯課	講座数 講座数	6 1	9 1	12 1	14 1	
	3 男性の家庭・地域活動への参画の促進		—	生涯学習課	—	—	—	—	—			
			妊娠婦教室	保健センター	回数	39	45	44	40			
	③定年退職者やアクティブシニアへの学習機会の提供	1 定年退職者のライフスタイルに対応した講座・講演会の開催	—	生涯学習課	—	—	—	—				
		2 祖父母の学びによる家庭教育力の向上	孫育て講座	市民協働国際課	—	—	—	—				
	(3) 学びを広げる学習情報・学習機会の充実	①高齢者の生きがい・健康づくりのための学習機会の提供	1 老人クラブ活動支援を通じた各種学習機会の提供	孫育て講座 老人クラブ 健康づくり推進事業	介護高齢課 生涯学習課	クラブ数 参加者数	129 482	128 537	128 488	127 487		
			2 高齢者向け健康教育の推進	—	保険年金課	—	—	—	—			
				介護予防教室	介護高齢課	参加者数	3,484	3,509	4,380	4,268		
		②障害者に配慮した学習機会の提供	1 障害者に配慮した学習情報の提供	—	中央図書館	整備点数	73	92	92	96		
			2 障害者に配慮した図書館サービスの充実	バリアフリー図書の整備	生涯学習課	—	—	—	—			
			3 誰もが参加しやすい学習機会の提供	—	スポーツ課	—	—	—	—			
			4 誰もが参加しやすいスポーツ活動・文化活動の支援	—	文化振興課	—	—	—	—			
		③情報化社会に対応した学習機会の提供	1 情報化社会に対応した各種行政情報の提供	—	全庁	—	—	—	—			
			2 生涯学習情報サイトの利便性向上	広報とよかわ発行事業	秘書課	広報とよかわ月発行部数	58,500	58,500	58,500	59,100		
			3 ICTを活用した情報提供の充実	—	生涯学習課	—	—	—	—			
			4 ICTに関する講習会等の開催	—	生涯学習課	—	—	—	—			
			1 図書館ネットワーク機能の拡充	—	中央図書館	—	—	—	—			
		④様々な学びを支える図書館サービスの充実	2 利用者に応じた各種サービスの充実	中央図書館利用者数 プラネタリウム利用者数 電子図書利用者数	中央図書館 中央図書館 中央図書館	来館者数 入場者数 登録者数	457,128 10,829 540	468,202 12,265 1,949	470,514 12,675 4,026	486,819 12,698 5,818		
			3 図書資料のハイブリッド活用の推進	—	中央図書館	—	—	—	—			
			4 地域資料や地域情報ライブラリーの充実	—	中央図書館	—	—	—	—			
	1 総合型地域スポーツクラブの育成支援		総合型地域スポーツクラブ	スポーツ課	クラブ数	2	3	3	3			
	2 各種スポーツ大会などの開催		市民体育大会	スポーツ課	参加者数	2,566	2,568	2,565	2,514			
			スポーツフェスティバル	スポーツ課	参加者数	4,943	4,357	4,067	4,034			
			シティマラソン	スポーツ課	参加者数	2,512	2,368	2,506	2,306			
			リレーマラソン	スポーツ課	参加者数	3,008	3,055	3,250	3,491			
			ウォーキングセンター利用者	商工観光課	利用者数	33,612	34,917	34,063	29,281			
	3 健康につながるウォーキングの推進		得するウォーキング教室（H30より、はじめるウォーキング教室） たのしむ・こだわるウォーキング教室	保健センター スポーツ課	講座数 回数	6 —	5 —	5 —	5 6			
			4 健康につながる食育の推進	食育キッチンファーム・おもてなしレシピグランプリ等	農務課	回数	2	2	3	2		
	食育推進関連事業			保健センター	参加者数	10,369	10,663	9,821	10,253			
	食育教育	保育課		参加者数	72	526	360	284				
	5 生活習慣病を予防する健康づくりの推進	健康教育	保健センター	実施回数	317	289	288	289				
		特定健診受診者結果説明	保険年金課	回数	49	49	49	49				
	(4) 学びの場の充実	①ブリオ生涯学習会館の生涯学習センター機能の向上	1 ブリオ生涯学習会館を核とした生涯学習施設のネットワーク化	—	生涯学習課	—	—	—	—			
			2 社会教育団体のブリオ生涯学習会館の利用促進	ブリオ生涯学習会館の利用率	生涯学習課	利用率(%)	42	42	42			
			3 生涯学習に関する相談体制の充実	—	生涯学習課	—	—	—	—			
		②生涯学習関連施設の利便性向上	1 公民館・生涯学習会館の利便性向上	公民館利用者 生涯学習会館利用者数	生涯学習課 生涯学習課	利用者数 利用者数	87,999 151,446	86,488 148,029	85,189 150,166	99,331 149,472		
			2 生涯学習会館等の開館日数や開館時間の拡大の検討	—	生涯学習課	—	—	—	—			
			3 公民館等における指定管理者制度導入の検討	—	生涯学習課	—	—	—	—			
			4 公共施設の共同型施設予約システムの充実	—	生涯学習課	—	—	—	—			
		③学校を中心とした地域の拠点づくり	1 公共施設適正配置計画に基づく学校施設利用の検討	—	体育施設予約システム利用者数	スポーツ課	利用者数	11,947	12,433	12,365		
				—	—	文化振興課	—	—	—	—		
				—	—	財政課	—	—	—	—		
				—	—	生涯学習課	—	—	—	—		
			2 学校開放体育施設の整備・充実	—	庶務課	—	—	—	—	—		
				—	子育て支援課	—	—	—	—	—		
				学校開放（体育施設）	スポーツ課	利用者数	405,864	409,424	397,081	387,729		
				—	庶務課	—	—	—	—	—		
	3 防災訓練等の学校の利用			防火防災訓練の学校利用	—	防災対策課、予防課	訓練数	14	29	27		
	—	—	学校教育課	—	—	—	—					

網掛け箇所は「第3次豊川市生涯学習推進計画」策定において新たに追加した施策であることを表す。
また、「—」表記は未実施であることを表す。

第3次豊川市生涯学習推進計画進捗状況表
2. 学びを通した人づくり

施策の 方向性	推進方策	具体的施策	施策項目	施策事業名	担当課	過去5年間の実施状況等一覧					
						指標	H27	H28	H29	H30	R1
基本目標 豊かな人生を自らが築く学習社会を確立します	(1) 学習成果の発表の場の充実	①学びの成果を確認する機会の充実	1 とよかわオープンカレッジにおける認証制度の検討	—	生涯学習課	—		—	—	—	—
				—	中央図書館	—		—	—	—	
			2 各種検定等の開催	とよかわ歴史検定	生涯学習課	実施回数	1	1	1	—	—
				とよかわ観光ものしり検定	商工観光課	実施回数	1	1	1	1	1
		②発表の場の充実と交流の促進	1 全市的な学習成果の発表の場の充実	オープンカレッジ等成果発表会	生涯学習課	実施回数	2	2	2	2	1
			2 地域における発表・交流の場の提供	公民館まつりの開催	生涯学習課	実施施設数	4	4	4	4	4
				市民館まつりの開催	市民協働国際課	実施施設数	20	21	22	18	17
			1 伝統芸能支援事業の実施	赤坂の舞台伝統芸能公演	生涯学習課	開催数	1	1	1	1	1
		③伝統文化や文化芸術の発表の場の提供	2 展覧会やホール事業の開催と文化芸術事業に関する支援	文化ホール公演事業	文化振興課	入場者数	7,548	7,924	5,357	6,109	3,709
				企画展示事業	文化振興課	入場者数	55,216	50,140	53,984	83,645	79,587
	(2) 若者の学びと社会参加の推進	①キャリア教育機会の充実	1 職場体験学習や福祉実践教室等の開催	—	学校教育課	—		—	—	—	—
			2 キャリア教育を通じた青少年健全育成の推進	—	生涯学習課	—		—	—	—	—
			3 勤労者のキャリアアップの促進	—	商工観光課	—		—	—	—	—
		②若者の社会参加の推進	1 若者が参加しやすい講座開催の検討	—	生涯学習課	—		—	—	—	—
			2 社会活動に参加する若者のリーダー養成	—	生涯学習課	—		—	—	—	—
			3 高校生・大学生・青年団等へのボランティア活動の場の提供	子どももの作り教室（高校生） 献血事業・盆踊り大会等（青年団） 若者ボランティア体験講座	生涯学習課 生涯学習課 市民協働国際課	講座数 開催数 講座数	10 2	9 3	9 3	10 2	9 3
		③子ども・若者育成支援の推進	1 ニートやひきこもりといった課題を抱える若者の相談支援	少年愛護センターの相談支援活動	生涯学習課	相談件数	321	251	249	206	292
	(3) 学びの循環による人づくり	①地域の教育力を支える講師・指導者の育成	1 とよかわオープンカレッジのシステムによる講師の育成	とよかわオープンカレッジ開講講座の講師	生涯学習課	講師数	235	240	226	208	211
			2 子どもものづくり教室開催を通じた人材育成	—	生涯学習課	—		—	—	—	—
			3 社会教育団体育成支援を通じた指導者の確保	—	生涯学習課	—		—	—	—	—
			4 ホール・ミュージアムを支え、主体的に文化に関わる市民の育成	テンペラ講座	文化振興課	講座数		—	—	1	—
		②中高年による高齢者の支え手の育成	1 健康づくり推進員活動の支援	健康づくり推進員	保健センター	推進員数	168	165	167	172	176
			2 支え手の育成・支援	認知症サポーター養成講座 介護・生活支援サポーター講座 介護予防サポーター養成講座	介護高齢課 介護高齢課 介護高齢課	参加者数 参加者数 参加者数	1,503 20 —	1,302 41 30	963 30 33	1,691 9 19	1,367 19 10
		③学習成果を活用する機会の充実	1 とよかわオープンカレッジの学びの地域への還元	—	生涯学習課	—		—	—	—	—
	(4) 仲間づくりのための活動支援	①各種講座・教室の自主サークル化の推進	1 講座参加者の固定化に伴う自主サークル化の推奨	公民館・生涯学習会館の自主サークル数	生涯学習課	サークル数	318	316	316	333	319
				市民館の自主サークル数	市民協働国際課	サークル数	455	455	448	450	448
			2 自主サークル活動の情報公開を通じた活動支援	—	生涯学習課	—		—	—	—	—
				—	市民協働国際課	—		—	—	—	—
		②ボランティア活動につながる人材育成支援	1 ボランティア活動につながる各種人材育成講座の開催	ボランティア・市民活動体験養成講座 生涯学習支援ボランティア 防犯ボランティア講座	市民協働国際課 生涯学習課 人権交通防犯課	参加者数 登録者数 参加者数	17 122 64	32 125 35	21 112 25	31 101 29	17 94 14

網掛け箇所は『第3次豊川市生涯学習推進計画』策定において新たに追加した施策であることを表す。また、「—」表記は未実施であることを表す。

3. 学びを生かしたまちづくり

施策の 方向性	推進方策	具体的施策	施策項目	施策事業名	担当課	過去5年間の実施状況等一覧					
						指標	H27	H28	H29	H30	R1
基本目標 豊かな人生を自らが築く学習社会を確立します	(1) 学習成果の実践の場の充実	①生涯学習活動と市民活動との連携	1 プリオ生涯学習会館とボランティア・市民活動センタープリオとの連携	—	生涯学習課	—		—	—	—	—
					市民協働国際課	—		—	—	—	—
			1 ボランティア活動の場の充実	若者ボランティア体験講座	市民協働国際課	参加者数		—	13	20	55
			2 地域の課題解決のための地域生涯学習事業や出前講座の活用	地域の課題解決のために開催する地域生涯学習講座	生涯学習課	講座数	27	26	23	38	44
		②学習活動が市民活動につながる仕組みづくり	3 ボランティア・市民活動体験・養成講座の開催		市民協働国際課	—		—	—	—	—
			4 各種アダプトプログラム活動の支援	豊川市公共施設アダプトプログラム事業	道路河川管理課	登録累計	134	140	144	152	158
	(2) 家庭・学校・地域との連携強化	①青少年健全育成を通じた地域との連携	1 地域の各種団体の連携強化のための情報提供	—	生涯学習課	—		—	—	—	—
			2 校区青少年健全育成推進協議会への支援	青少年健全育成活動費補助	生涯学習課	補助（千円）	3,845	3,845	3,845	3,845	3,845
		②家庭・学校・地域との連携による地域教育力の向上支援	1 学校の日等を利用した地域や家庭と学校との連携	学校の日	学校教育課	参加者数	62,069	62,555	58,306	56,051	43,551
			2 学校サポーター事業の推進	学校サポーター事業	庶務課	登録累計者数	576	610	691	638	667
			3 地域の子育て環境の充実	子育てサポーター養成講座	子育て支援課	参加者数	18	19	22	22	17
		③郷土理解と文化芸術の創造による地域づくりの支援	1 学校教育活動における地域の歴史や伝統芸能の学習		学校教育課	—		—	—	—	—
			2 地域生涯学習講座等の開催を通じた地域づくりの支援	地域生涯学習講座における郷土理解と文化芸術の講座数	生涯学習課	講座数	56	62	70	71	66
			3 文化芸術の独自性の確立		文化振興課	—		—	—	—	—
	(3) 学習成果が生きるまちづくりの支援	①学習成果の評価と活用	1 社会教育関係者による主要事業の評価・検証	社会教育審議会	生涯学習課	会議開催回数		2	3	3	3
			1 地域の課題解決のための仲間づくりの支援	—	生涯学習課	—		—	—	—	—
			2 地域のグループやサークルの活動支援	—	生涯学習課	—		—	—	—	—
					市民協働国際課	—		—	—	—	—
		②まちづくりにつながる人材育成と活動の場の充実	1 学校教育活動における地域の歴史や伝統芸能の学習		学校教育課	—		—	—	—	—
			2 地域生涯学習講座等の開催を通じた地域づくりの支援	地域生涯学習講座における郷土理解と文化芸術の講座数	生涯学習課	講座数	56	62	70	71	66
			3 文化芸術の独自性の確立		文化振興課	—		—	—	—	—
		④まちづくりにつながる人材育成と活動の場の充実	1 コミュニティリーダー養成講座の実施	コミュニティリーダー養成講座	市民協働国際課	参加者数	128	121	102	120	131
			2 市民協働推進事業の支援	市民協働推進事業の支援	市民協働国際課	補助事業数	6	6	8	7	9
			3 防災リーダー及び防災ボランティアコーディネーター養成講座の実施	とよかわ防災リーダーの養成 防災ボランティアコーディネーターの養成 とよかわ女性防災リーダーの養成	防災対策課 防災対策課 防災対策課	修了者数 修了者数 修了者数	64 9 —	53 —	58 15 40	68 —	53 36 25
				豊川海軍工廠語り継ぎボランティア養成講座 赤坂宿ボランティア養成講座 国分尼寺ボランティアガイド養成講座 大橋屋ボランティアガイド養成講座	生涯学習課 生涯学習課 生涯学習課 生涯学習課	講座数 講座数 講座数 講座数	 —	 1	 —	 1	 —
		⑤スポーツ指導者・スポーツボランティアの育成	5 スポーツ指導者・スポーツボランティアの育成	スポーツボランティア派遣事業	スポーツ課	教室実施回数	0	0	0	—	—
			6 観光まちづくりボランティア活用事業の推進	観光まちづくりボランティア講座	商工観光課	参加者数	36	28	8	11	3
		⑥まちづくりにつながる人材育成と活動の場の充実									

網掛け箇所は『第3次豊川市生涯学習推進計画』策定において新たに追加した施策であることを表す。また、「—」表記は未実施であることを表す。

第3次豊川市生涯学習推進計画改訂版

(令和3～令和7年度)

発 行 ●令和3年3月

発 行 者 ●豊川市

企画・編集 ●豊川市教育委員会 生涯学習課

〒441-0292 愛知県豊川市赤坂町松本250番地

電 話 0533(88)8035

